

研究室・事務室等で
回覧して
お読み下さい。

教職員・院生版生協だより

かけはし

No. 250

2003年 11・12月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111



「図書館を良くすることは大学を良くすること」

と語る伊藤義人附属図書館長

名大生協のホームページ (URL) <http://www.coop.nagoya-u.ac.jp/>
教職員委員会への e-mail あて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

主張《大学の変化に伴い圧倒的な教職員に支持される生協を目指して加入・増資を呼びかけます》	3
【特集―「かけはし」250号記念】	
中條さんに聞く「かけはし」創刊の頃	4
「かけはし」250号にあたって	5
「かけはし」も収蔵・名古屋大学史資料室を訪問	7
95回のフィールドノートを振り返って	8
【インタビュー】	
学問の魅力、学生、生協への期待―研究科長・部局長へのインタビュー⑥	
伊藤義人附属図書館長	14
【企画】	
地下鉄開通記念北部生協まつり教職員委員会企画案内	9
COOP細江みかんの産地見学	10
第16回音としゃべりの金曜サロン	
「初冬のホット・ジャズ・コンサート」	11
IB電子情報館南館カフェの名称募集	12
ビデオを見ながら「50歳からの健康エクササイズ」	13
【報告】	
安曇野ちひろ美術館訪問ツアー報告その1	
戦没画学生慰霊美術館「無言館」印象記	28
教職員委員会の活動日誌	38
【記事】	
カナダに来てみて	30
私の百名山「トムラウシ」	32
魔言「癌」	38
アンケート・クイズ解答用紙	40
かけはしの輪	41
COOP QUIZ<Logic>	裏表紙

表紙のことば

10月2日、かけはしのインタビューで附属図書館長室に伊藤義人教授を訪ねた。先生のご専門は橋などの鋼の構造物の研究をされていて名港トリトンも初期の計画から加わり強度測定に苦勞された話などを伺った。国民の意識の変化とともに橋は強度から景觀へ、そして環境負荷のかからない素材選び省資源省エネルギーを考えなければならぬ時代になってきたと語る。図書館については夜10時までの開館、土日開館と全国に先駆けて実施し利用者に喜ばれている。図書館を良くすることは大学を良くすることであると結ばれた。



「図書館を良くすることは大学を良くすること」と語る伊藤義人附属図書館長

主張

現在、教職員委員会では秋の生協強化月間の取り組みとして、生協への加入・増資運動を行っています。12月15日までに基準出資額である20000円（5口）までの加入・増資された方には、12月5日（金）に行われる「音としゃべりの金曜サロン」（ジャズ・コンサート）に半額の優待をしています。また、生協食堂利用券200円×2枚を差し上げています。11月22日の生協ミカンの産地見学の参加費も半額で参加することが出来ます。この機会に、是非とも加入・増資いただきまして、生協をご利用ください。

生協に加入すると、いろいろな特典があります。書籍は全点1割引で購入できます。また、CD、DVD、ビデオなどのメディアについても1割引

で手に入ります（一部、マイナー系レーベルをのぞく）。あと、あまり教職員組合員のみなさんには浸透していないかも知れませんが、新譜については10日前に注文すると15パーセントOFFで購入することも出来ます。その他、組合員証をクレジット機能が付いたものにすればパソコ

在職される教職員の加入率はおよそ55%位となっています。法人化を迎えるに当たって広く大学に根ざした生協としていくためには圧倒的な教職員のみなさんの支持が必要となります。生協職員も一致団結して日々の業務に邁進しています。我々組織委員会も教職員組合員間の交

大学の変化に伴い圧倒的な教職員に支持される生協を目指して加入増資を呼びかけます

ンやオーディオ・ビジュアル機器および家電製品などの高額商品はクレジットを利用することも可能です。もちろん不要な方には機能なしの組合員証も選ぶことが出来ます。

この間、学生の加入率は95%前後、大学院生の加入率は約70%ですが、名古屋大学に長期間

流を深め、文化的な行事を企画し、より利用しやすい、安心・安全なものを供給していくことに全力を傾けています。

生協の建物は東山キャンパスにおいては西側に集中していて東側には購買・書籍などの総合店舗がなくご不便をおかけしています。店舗が遠くて利用しに

くないなどで未加入のご意見がありますが、生協書籍部の利用班に入りますと定期購読の雑誌や注文の書籍も研究室・事務室までお届けしておりますので大変便利です。また、今後理系地区では新研究棟が順次竣工され人口が増えることが予想されます。将来、理系食堂あたりに購買・書籍・食堂が一緒になった総合店舗が出来ることを切に望んでいます。

そのためにも、この機会に加入・増資を再度お願いいたします。



「かけはし」250号記念

中條さん（副理事長）に聞く 「かけはし」創刊の頃

Q かけはしは創刊以来、今月で250号を発行するのですが、当時はどのような状況だったのでしょうか？

中條 私は1964年に大学に就職しました。当時は当直制度というのがありまして、8時半に当直が開けると大学周辺には何もなくて朝食をとる場所も物も無い持代でして、唯一生協食堂が朝食営業をやっていたとして、現在の学生会館の中にあつた食堂で世話になりました。もちろん、昼食も生協食堂でしたから、そこで生協への加入方法を探ねて手続をしました。

Q 生協の理事になったのはいつからですか、そのいきさつなど聞かせてください。

中條 1968年に名大職組連合会の書記長を経験しまして、その任期が終わると生協の理事をやらないかと誘われたので引き受けました。それ以来です。

Q かけはしの創刊当時はどのような様子でしたか？

中條 1960年当時、四日

市公害、水俣病、カネミ油醬混入事件、ヒ素ミルク中毒事件、脱脂牛乳油脂類混入事件、合成洗剤の河川や海洋汚染など食品の健康被害や環境に対する複合汚染などが大きな社会問題になって、それがきっかけで地域生協が全国で誕生しました。名古屋でも、名大生協の教職員組合員が協力して「めいきん生協」を創りました。

しかし、一方で大学教職員の中には「生協はどういう事業をやっているんだ」「どうすれば加入できるんだ」ということすら知らない人がいました。就職と同時に労働組合には入ったが、生協は知らなかった。そういう人がほとんどでしたからね。そこで、生協を教職員にもっと利用しやすいようにしよう。そのために理事は何をすべきかと考えたわけです。

当時、工学部の井関先生（定年退官された）や農学部（都築先生（退官後、本年6月23日故人となられる）など（以下、次ページ下段に続く）



中條さんのお話に出てきた現在の「学生会館」。この一階に食堂も書籍も購買もあった。



「かけはし」250号記念

「かけはし」250号にあたって

名古屋大学消費生活協同組合

専務理事 今井 信彦

教職員・院生版生協だより「かけはし」は、お聞きするところ1972年発刊となつています。それから早や31年という年数が過ぎました。時代も高度経済成長からデフレ社会に、社会も少子化が急速に進み今後の年金や保険制度が現状の維持ができなくなるという状況に変化しています。情報環境も今や一人1台の携帯電話の保持率になつており、全国大学生協連の学生生活実態調査では、携帯電話の費用が1ヶ月の食費額を追い抜くという劇的な様相になつています。

一方私達生協が仕事をさせて頂いている大学も皆さんもご存じのように2004年4月に法人化という第三の大学改革を迎えています。

大学が中期計画・中期目標を持ち年度ごとにその達成度の点検をし、国や国民への説明責任を果たし大学の役割と貢献度を明確にするためと思われまふ。

その中で生協も大学のパートナーとしての責任と役割が

(前ページより)

の先輩方と全組合員、教職員を対象にした広報誌の必要性を確認しました。

Q 創刊号の発行はいつになるのでしょうか？

中條 1972年の正月号です。学生も参加して「生協ニュース」という形で発行し、2月号から教職員版生協ニュースの創刊号という形でスタートします。「かけはし」という名称は4月号からで、都築先生が命名し、現在も表紙に使われている文字は、作物講座の石川技官が揮毫されたと同つています。都築先生は、その後、大学生協の東海地方連合会の教職員版として発行する機関誌も「ほそみち」と命名しました。こちらのほうはもつか休刊状況です。

Q 記事集めとか、編集とか、配布方法など大変だと思ふのですが？

中條 そうですね。当時理事會室に就職したばかりの若い女性とベテランの男子職員がいて、組織担当として、かな

り手伝つてくれました。

文化レク行幸や病院地区、農学部地区など比較的隔地にある店舗を中心に活発に組合員が活動していたので、また共同購入も始めたので、定期的な機関誌の配布が必要でもあったわけです。

Q 当時の活動の思い出などありますか？

中條 機関誌を発行する前年に京都大学と同志社大学の施設見学と交流に出かけました。初めて他の大学の施設を見学するのと、他大学の教職員委員会と交流するので、とても緊張したり、多くの刺激を受けました。

また、その年に初めて幹事會の合宿を行い、そこで教職員委員会として発足する運びになったことが今日の出発点だったような気がします。當時の方は、ほとんど定年退官をされていますが、今はとても懐かしい思い出ですね。

Q お忙しいところありがとうございます。

(中條保さんは「私の百名山」も連載中。現副理事長)

今まで以上に求められることは当然です。

大学が選択される時代に突入し、入学する学生が4年間または6年間に大学で教育研究として学生生活に満足していただけるのが重要な判断材料となります。

生協は今年の総代会で次の3点のビジョンと5つのアクションプランを総代会に決定しました。

《2010年に向けての3つのビジョン（使命）》

（1）私達は安心・安全かつ信頼される商品やサービスの提供を通じて、組合員一人一人の健康的で豊かなキャンパスライフを支えます。

（2）私達は勉学・教育・研究生活をサポートし、学び・体験の共生空間を広げます。

（3）私達は名古屋大学における研究・教育の発展を願ひ、協同組合の活動を通じて人間性と科学の調和的發展に貢献します。

《5つのアクションプランと重点課題》

（1）名古屋大学の福利厚生施設のより一層の充実で豊かなコミュニケーションに貢献します。

（2）学生生活及び教育研究勉強サポート活動の充実で学園生活に貢献します。

（3）大学内でのエコキャンパスづくりに貢献します。

（4）大学と協力して地域に開かれた大学づくりに貢献します。

（5）学内の諸団体と協力して人と人との共同と参加を広げます。

このビジョンとアクションプランに基づいて名古屋大学のブランドへの貢献を今後更に強力に進めていきたいと思ひます。

偶然にも今年12月13日に地下鉄が開通し、地下鉄「名古屋大学」駅が誕生します。

これはただ単に交通アクセスが変わるというだけにとど

まらず地域や市民との連携として大学の情報発信に重要な役割を果たすと考えます。

生協では、現在理事会を中心として地下鉄開通記念企画の検討に入っています。

是非大学の皆様にもご協力を頂いて喜んでいただけるように充実させていきます。

最後に今後名古屋大学が更に発展していくためにも、生協は日常サービスの向上はもとより大学への貢献そして名古屋大学同窓会との連携を強め、大学のブランド作りに職員・補助職員・アルバイトスタッフも含めて一丸となつて貢献することを最後のまとめとします。（2003/11/25 〓 いまい・のぶひこ）



北部厚生会館の入口正面に掲げてあるスローガン「みんなでつくるみんなの生協」



「かけはし」250号記念

「かけはし」も収蔵

名古屋大学史資料室を訪問

<連絡先>電話・FAX とも052-789-2046
E-MAIL: nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp、
URL: http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp/

名大生協の機関誌「かけはし」も収蔵保存されている名古屋大学史資料室を訪問し、室員の神谷智先生（写真上）にお話を伺いました。

大学資料室は共同教育研究施設1号館の2階にあり、名古屋大学に関わる歴史的な資料の恒常的な収集、整理、保存および活用。また、名古屋大学を中心とする高等教育史についての調査研究および記録資料の管理等に関する教育を主な活動内容としています。

資料室の沿革は、1989年10月に「名古屋大学50年史部局史1・2」を刊行するに当たり、1985年5月に名古屋大学編集室を開設したところから始まります。その後、91年に「写真集Ⅱ名古屋大学の歴史1871～1991」を刊行、95年には「名古屋大学50年史 通史1・2」を刊行しました。1996年3月に編集室を廃止し、4月（平成8年度）に名古屋大学史資料室として設置されました。



99年10月には「日本の大学—近代日本と名古屋大学—」と題して共通教育の開講を開始、2000年10月には「名古屋大学史資料室保存資料目録」の刊行を開始し、12月には「名大史ブックレット」シリーズを刊行、01年4月に名古屋大学史資料室に改組され現在に至っています。

大学資料室は、「名古屋大学史資料室利用規程」（2001年4月1日改正・施行）に基づいて、所蔵資料を公開して学内外の利用者に

対する各種サービスを行っています。

また、これからの情報公開社会における大学図書館（大学アーカイブス）として調査・研究機能および教育機能の充実を目指しています。

利用できる時間帯は月曜から金曜の10時～12時と13時から16時半までとなっています。土・日、祝祭日および年末年始はお休みです。資料の閲覧、複写・撮影、貸出および参考調査の依頼などができます（申請などの手続きが必要）。

神谷先生の案内で、保管中の「かけはし」（写真）を見せていただきました。「かけはし」は、127号から保存されていました。今後も、名大生協学生委員会編集の「Naga-Link」、理事会室編集の「生協通信」なども含めて所蔵に協力できればいいのではないかと思います。

また、生協で保管中の「かけはし」創刊号から126号までをお届けすることも考えています。（取材と文Ⅱ皆川）

九十五回のファイルド ノートを振り返って

名古屋大学情報科学研究科 広木詔三

今日は日曜日。秋晴れのとても穏やかな日である。キンモクセイの花の香がキャンパス内をまだ漂っている。

今年は夏も涼しく、十月に入ってから曇りがちで肌寒く、このまま冬に突入でもしそうであった。しかし、ここに至ってようやく空が晴れ渡り、秋晴れの暖かい日が続くようになった。

例年だと、キンモクセイの花は十月初旬の一週間ほどで、あつという間に咲き終わってしまうのが、今年は気温が低い日が続いたせいもあって、だらだらと咲き続けたのであった。例えば九月下旬に筑波のオークに関する国際会議に出席したとき、すでにキンモクセイの花の香りを嗅いでいたのであった。

先日、かけはしの原稿の締め切りをまじかに控えて、担当の箕浦さんから、次号はかけはしの二百五十号の特集号を組むのでよろしくというあいさつを受けた。九月には北海道の稚内にサンプリングに出かけ、日本の最北端を制覇したのであったがそれについては次の機会に記そう。

私がかけはしの原稿を引き受ける前には、農学部組織田銃一さんが専門のほ乳類に関する面白い連載を続けていた。

当時、私は文章を書くのが苦手、名古屋大学職員組合発行の機関誌（がりばん刷りだったように思う）にたとえどしい文を毎月一年間書き続けたところであった。当時はまだコンピュータを使う習慣がなく、手書きで、書き損じた原稿を何

度もくずかごに投げ捨てた記憶がある。

私の最初のファイルド・ノートの原稿がかけはしに載ったのは一九八五年七月の第八六号であった。それは二年足らずで、十七回の連載で終わった。当時からクイズは載っていたが、読者の声の欄はなく、読者の反応は知ることが出来なかった。しかし、この時期のファイルド・ノートの方が純朴ではあるが、生々しいファイルドでの研究の様子が描かれている。初回の裏磐梯高原の様子や、第二回の御在所岳でのロープウェイの話とかは、現在読み返しても、雰囲気がよく書けていると感じる。原稿を書き続けることが辛く、ときどき手抜きもしたが。

新ファイルド・ノートとして再出発したのは一九九五年の一月号からである。この時期は文を書くことに慣れ、書くことが楽しい時期でもあった。たんに調査・研究の話だけでなく、私の心や脳の内面にも触れはじめている。当時は読者の感想が載せられるようになり、私の新フ

イルド・ノートにも好意的な感想がときどき載った。第二十回前後の三宅島あたりがクライマックスで、面白いという感想が毎回のよう寄せられていた。だが、回を重ね、四十回の頃に同窓会の経験や回想録を始めると、反応はにぶくなり、本筋の話が聞きたいという声も載るようになった。

そろそろ八十回を迎えるこのごろ、もうほとんど私の原稿に対する反応は見られなくなってきた。でも感想文は寄せられないうが、固定の読者はまだいるのである。名古屋大学に所属していない人には、毎号届けて回っているのだから。少なくとも百回、あと二十回は頑張らなければならぬ。

今日は久しぶりに東山丘陵を散歩してきた。そろそろアラカシのどんぐりが落ち始めるのである。もうすでに午後の八時を回っている。これから明日の授業の準備をしなければならぬ。今回は特集号に便乗して手抜きであった。次号からはまた期待に応えるよう努めたい。

教職員委員会の企画案内

第30回

献血助け合い活動

月日 12月3日(水)
4日(木)
時間 11:30～16:00
場所 VBL北駐車場



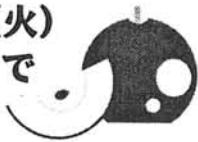
リンゴの産直販売

月日 12月2日(火)
～売り切れまで

時間 終日

場所 北部生協前テント内

めいきん生協でおなじみのFエースリン
ゴ、生産者から直接仕入れた鮮度の良い
安心・安全なおいしいリンゴをどうぞ。

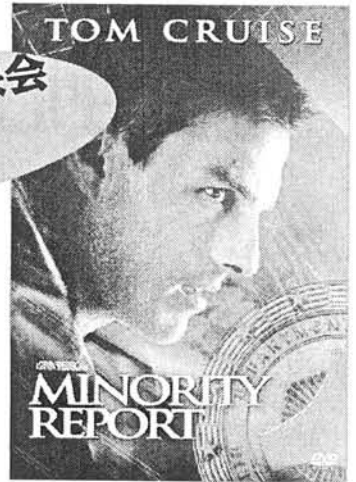


映画(ビデオ)上映会 入場無料

作品 マイノリティ・
リポート(146分)

日時 12月3日(水)
17:30～

場所 北部2F ゆ～どん

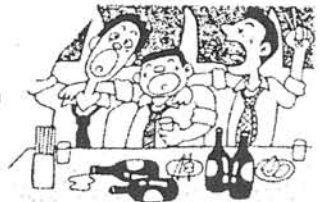


語らいと交流の夕べ あかちょうちん

月日 12月4日(木)

時間 17:30～19:30

場所 北部2階 ゆ～どん



第16回音と しゃべりの金曜サロン

M(美千代)&M(美弥)

初冬のホット・ジャズ・コンサート

日時: 12月5日(金) 18:00～

会場: フレンドリィ南部食堂ホール

参加費: 1500円(夕食付き)

定員: 50人(完全予約制)

地下鉄開通記念北部生協まつり企画

語らいと交流の夕べ

赤ちょうちん

割引券(全品5%Off)

合計金額の5%を端数10円単位で割り引きします

いつ: 12月4日(木) 17:30～19:30ころ

どこで: 北部厚生会館 2F ゆ～どん

めにゆー: 缶ビール・お酒 各200円
名大学章入り地ビール 400円
(お持ち帰りは割引対象外です)

おでん(1本) 60円

おつまみ(1品) 150円

(焼きそば、串カツ、唐揚げ、肉じゃが)

企画は名大生協教職員委員会

地下鉄開通記念北部生協まつり企画

語らいと交流の夕べ

赤ちょうちん

割引券(全品5%Off)

合計金額の5%を端数10円単位で割り引きします

いつ: 12月4日(木) 17:30～19:30ころ

どこで: 北部厚生会館 2F ゆ～どん

めにゆー: 缶ビール・お酒 各200円
名大学章入り地ビール 400円
(お持ち帰りは割引対象外です)

おでん(1本) 60円

おつまみ(1品) 150円

(焼きそば、串カツ、唐揚げ、肉じゃが)

企画は名大生協教職員委員会

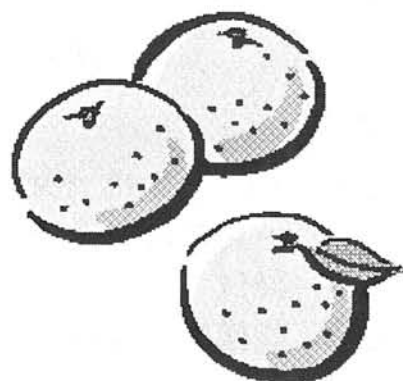
秋の産地見学・工場見学のご案内

○安心安全のCOOP!細江みかんへ○

晩秋の土曜日、見て！食べて！学習して！温泉に！そして、フラワーパークへ！紅葉の中を歩いてリフレッシュをしましょう！

日 時：**11**月**22**日（土）

行 先：細江農産物供給センター
（静岡県引佐郡細江町）



募 集：**14**人（先着順）

参加費：**1,800**円、小学生以下**850**円

日 程

8:30 豊田講堂前 集合・出発
8:50 名古屋IC（東名高速道路にて→三ヶ日IC）
10:10 細江みかん産地見学
12:20 みかん園出発
 昼食→舘山寺温泉へ
14:00 入浴&フラワーパーク見学
16:00 舘山寺温泉出発
17:20 東山公園近くで1次解散
17:35 豊田講堂前2次解散

申し込み：クイズの解答用紙かe-mailで

問い合わせ先：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

第16回「音としゃべりの金曜サロン」のご案内

『初冬のホット・ジャズ・コンサート』

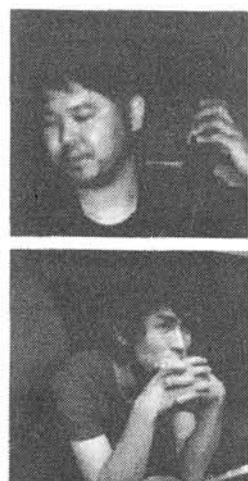
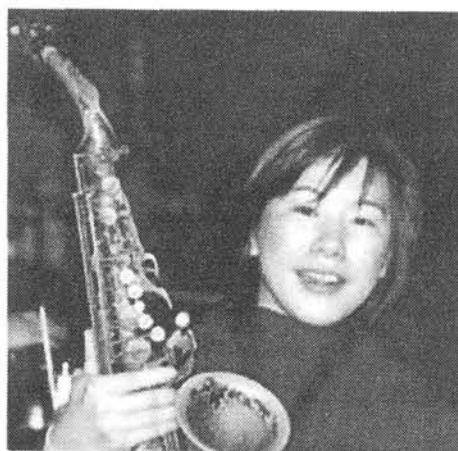
出演：M&M(美千代&美弥)+リズム・セクション

メンバー：小林美千代(alto sax), 中嶋美弥(piano), 島田 剛(base), 佃 政彦(drums)

日時：12月5日(金) 18:00 ~ 20:00

会場：「フレンドリィ南部」(南部厚生会館東向かい)

参加費：1,500円(松華堂弁当, 飲物付き) 予約制



今回の「音としゃべりの金曜サロン」は、寒さを吹き飛ばすようなホットでスイングするジャズ演奏で大いに楽しみましょう。12月5日、金曜日夕方から「フレンドリィ南部」を会場にして、**M&M**(美千代&美弥)カルテットを迎えてのジャズ・ライブです。

参加チケットは近くにいる教職員委員か北部厚生会館2階「組合員コーナー」で扱っています。電話予約は、同名大生協理事会室、内線：7540(中村)までお申し込み後、参加費と引き換えに参加チケットを受け取ってください。

組合員ならどなたでも参加できます。たくさんの組合員の皆さんの参加をお待ちしています。学内のご友人と一緒に参加ください。ライブならではの演奏とトーク、そしておいしい食事をとりながら一緒に楽しみましょう。e-mail:kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jpでも受け付けます。

小林 美千代さんのプロフィール：

名古屋生まれ。千種高校・金城学院大卒。2003年3月、満を持して1stアルバム「LUCK OF PIECES」をリリース。今、日本で最も吹けるサクソ奏者として人気沸騰中!! ボーカルのようによく歌い、スピード感溢れるブローは力強い。

中嶋 美弥さんのプロフィール：

浜松市生まれ。大学時代にジャズに魅せられ、オーソドックスなジャズ奏法の中にセンスの良さがキラリと光る今最も旬な若手ピアニスト。明るい性格とそのチャーミングな笑顔とともに人気・実力上昇中!

残るベースの島田剛さん、ドラムの佃政彦さんとも全国の一流ミュージシャンとも共演し、ツアーの経験をす。名古屋CUGジャズ・オーケストラなど多数のバンドでの演奏経験を持つ。共演を熱望される売れっ子ミュージシャンたちです。

IB電子情報館南館(仮称)に 2004年 カフェがオープンします

生協の新しいカフェの名称を募集します

2004年の春に完成するIB電子情報館南館(仮称)1階にカフェコーナーがオープンします。コーヒー、ジュース、ビール、ワインなどの飲み物と軽食を提供し、学内の憩いの場としての運営を考えています。そこで、このカフェの名称(店名)を組合員のみなさんから広く募集いたします。



この1階です

店内イメージ図

(オープン時は異なる
場合がございます)

IB電子情報館南館(仮称) カフェ名称応募用紙

学部/学研究科	学科/学専攻	応募期間：2003年11月1日～11月30日 応募方法：専用の用紙にて最寄りの生協店舗に設置してある「組合員の声」BOXに投函ください。 名称の決定：12月度生協理事会にて決定 賞品：優秀賞－生協プリペイドカード3千円分(5名) なお、入賞作品に関する一切の権利は名古屋大学生協に帰属します。
または所属	年/教員/職員	
お名前		
TELまたはe-mail		
店名		アピールポイント

ビデオを見ながら 「50歳からの健康エクササイズ」 (Part2)

岩波書店から『50歳からの健康エクササイズ
—体操・運動・安全・栄養』という本が出た。

「高齢者や病弱者、運動不足の中年の人々が活発で健康なライフスタイルを維持できるよう、米国国立老化医学研究所が総力をあげて製作した運動ガイドブックの日本語版。持久力や筋力をつけ、バランス力や柔軟性を高める体操と運動の実際をていねいに紹介します。ほとんどお金をかけなくても家庭で手軽に運動を始めることができます。安全なやり方、持続の秘訣、食事の注意についてもやさしく解説。日本語版では、病気を防ぐ食事と運動について新たな章を設けました。別売のビデオを併せて利用すると、さらに効果的です」(本のカバーより)というわけで、本を読

みながら、みんなでビデオを見て学ぼうという企画です。レストラン「花の木」の食事を楽しみながら一緒に学習しましょう。



「50歳からの健康エクササイズ」
(米国国立保健研究所・老化医学
研究所／高野利也訳)

日時：**12月11**日(木) 12:10~13:00

会場：グリーンサロン東山ミーティングルーム

参加資格：生協組合員ならどなたでも(定員20人)

参加費：**500**円(昼食付)

テキスト(本体1500円+税)は生協書籍部でお求め
ください。

参加申込：E-mailでkyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

主催：名大生協教職員委員会

学問の魅力、学生、生協への期待

—研究科長・部局長へのインタビュー ⑥

伊藤 義人 附属図書館長

(いとう・よしと)

名古屋大学工学研究科・地圏環境工学専攻 教授
専門は構造工学・地震工学、環境情報システム、耐震構造、
衝撃工学
地圏環境工学・伊藤研究室のホームページ
<http://falcon.cirse.nagoya-u.ac.jp/itoh-lab/index.html>

私のスタートは 鋼でできた橋梁の研究

今井 法人化に向けて、先生の

お力もあつて図書館もかなり変わって来ていると思います。そうした変化を含めて、これから図書館のありようや、生協への期待を、ざつくばらんにお話しただき、私どもの活動の糧にしたい、また私どもの『かけはし』で、そうしたことをみなさまにもお知らせしたいと思います。

加藤 『かけはし』の読者である教職員、院生の方々が、名古屋大学の先生方がどんな研究をされているかということに興味をお持ちなので、先生のご専門の話をもっとお伺いしたいと思います。二つ目には法人化で、これから大学が大きく変わっていくと思いますが、図書館を今後どんなふうにされていくかとしているのか、将来のお話を語っていただければと思います。先生には特に同窓会の関係のお仕事もされていると思います。同窓会に関わってもご紹介いただ

ければと思います。

最後に学生や先生方、それから生協のほうにもぜひいろいろなアドバイスをいただければと思います。では最初にご専門の紹介をお願いします。

伊藤 私の専門はもともと「鋼構造」です。具体的には鋼でできた橋梁の研究からスタートして—もちろん今でもまだ橋梁の研究もしています—鋼構造物が地震、あるいは最近始めているのが、車が防護柵にぶつかったときにどういう挙動をするとか、設計をどうするかという研究をしています。鋼構造物の耐力とか強度というもののばらつきから発して、実際に自分でも実験もしたのですが、例えば柱とか梁みたいなものに荷重を加えた時に座屈する現象があるのですが、その強度がどれくらいばらつき、設計の時にどうしたらいいかということを始めました。

自分で実験をやっていると非

常に手間もかかります。設計のときに構造物の強度がどれくらいばらつくかということがきちんと分かっているといけません。特に、学位論文を書いた当時は、「信頼性設計」と言って、いわゆる確率論にもとづき、強度がばらついたとき、どのように設計したらいいかがことが課題でした。

普通の人々が、例えば道路を歩いていてどれくらいの確率で事故に遭うか、飛行機に乗ったらどのくらいの確率で事故に遭うかという言い方をします。それと同じように、このオーダーで建物の安全性がなければいけないと言われていましたので、そのためには構造物の保有している能力が、どれくらいのばらつきを有しているかわからなければいけないので、実際に自分でも実験と解析を行いました。

自分だけの実験データを使っていたのではなかなか難しいということ、世界中の実験データを集めて鋼構造物の実験データベースを作るという研究をして、学位論文を書きました。鋼構造の力学から入り、情報分野の知識を使って構造分野の新しいデータベースを作った学位論文

世界中の実験データを集めて 鋼構造物の実験データベースをつくりました。



(10月2日、附属図書館5階の会議室にて)

にしました。

その後は、そこからいろいろ変化して、新しく始めたものもあります。最近はいわゆる「構造」と「情報」、さらに「環境」というキーワードが入って、例えば橋梁とか鋼構造物を作る時に、環境負荷を少なくするためにはどうしたら良いかという研究をしています。地球環境で言えば、今、指標でいちばん取り上げられているのはCO₂の排出量です。どのような構造物を作ったり、あるいはどのように作ればCO₂の発生量を少なくできるかというようなことをいろいろ検討してシステムをつくっています。

実際にそういう環境問題をやるうとすると、基礎的なデータが足りません。橋梁は作る時だけでなく、作ってからのメンテナンスも必要ですが、両者において環境負荷が発生します。そういうものを少なくするためにはどうしたら良いかという研究です。土木分野ですから実用

的な部分と、基礎的な部分の両方があります。

専門外の人には私の話し方が分かりにくいと思いますし、理系の分野ではいつもスライドなどを使って説明するのが普通ですから、言葉だけで説明するのに慣れていません。いろいろ聞いていただけたら答えたいと思います。

加藤 世界中からいろいろなデータを集めてきた中で気づかれたこと、特に、一人でやるのと違って面白いのはどんなことですか？

伊藤 実験というのは同一の目的でやっているわけではないので、違う目的で行われたものを集めてきて、一定の方式でまとめると、違う知見と言いますか、従来得られなかった知見が出てきました。特に構造物の強度のばらつきを、大量のデータを使って明確にしました。論文を書いたとき、ヨーロッパやアメリカでも非常に反響があって、その研究成果を使って設計基準が修正されるということもありました。

土木分野では、もともと工学はすべて土木だったという言い方をします。良い言い方をすれ

ば工学のルーツだと。技術が発達してきて種々の分野に分かれていったということです。しかし、悪口を言う人は、土木は残ったものしかやってないと言います。要するにまだ未分化で人間生活に密着したことをやっており、人との関わりが深く、社会科



【写真】インタビューに答える伊藤図書館長（後ろ向き）。正面左から今井、加藤、箕浦、波多野（10月2日、附属図書館会議室）

学的な側面も持っています。そのため、環境問題は土木分野の大きなテーマです。

環境負荷を考慮した橋梁形式選定支援システムを作り、これを題材に、環境と構造との関連の最初の論文を書きました。橋梁のライフサイクル環境負荷は、建設時だけでなく、維持管理及び、取替えのところまでの構造物のライフサイクルを扱います。CO₂だけではなく、建設副産物、すなわち建設時や維持管理時にも廃棄物が出ます。そういうものを少なくするためにはどうしたら良いか、そんなことを最近やっています。そのためには構造物を長く使えるようにすることが非常に大事で、そのためにはどうしたら良いかを考え、環境促進実験などで検討をします。

名港トリトンには思い入れが：

柴田 先生が関わられた具体的な橋の名前を上げていただくと……。

伊藤 私が助手の頃からずっとタッチした橋として、名港トリトンがあります。ご存知ですか。名古屋港に三つの大きな斜張橋が架かっています。私はそれら

の橋の橋梁委員会で、計画の段階から出来上がりのところまでずっと付き合いしました。

その中の西にある名港西大橋ってご存知ですか？ こんなふうに平行して同じものがダブルで架かっています。最初は片側だけ架けて、対面交通で開通し、その後ももう一つ同じものをすぐ横に造ってダブルになっていきます。あれに私は最初からずっとタッチして、完成の時には、本当に性能を発揮するかどうかということ、箱断面桁の中に一昼夜入り、いろいろ測定をしました。タワーの中のはしごを登って頂上まで行き、振動を調べたこともありました。

最近のことでは、まだ計画中ですが渥美半島から鳥羽の方へ伊勢湾大橋をかけようという計画があります。そのための委員会があり、私もそのメンバーです。私が具体的に設計しているというのではなく、アドバイザーとして参画しています。

あの名港トリトンには非常に思い入れがあります。名港西大橋は、完成した当時は鋼でできた斜張橋の中では世界一でした。世界最大の橋を造るということで、大学でタワーの座屈実験と

か、鋼桁の耐力力の実験をしました。その後すぐに横浜ベイブリッジなどに追い抜かれましたが……。でも世界一の物を造るということは、いろいろ技術的な飛躍がないと出来ませんから、そういう意味では非常に面白い仕事でした。

加藤 全国を回られたりして、ホテルじゃないところでカンツメになったりというそんなお仕事が多かったんですか？

伊藤 国内ではそんな事はありませんが、スリランカに国際協力事業団（JICA）が橋梁を無償援助するというので、ぜひとも私に来てくれと言われまして、スリランカの奥地まで行きました。ゲリラがいるとか、「グリーンズネークが飛んでくるから気をつけてください」って言われました。もし噛まれたら、捕まえてぎゅっと頭を切ってそれを持って医者に行ってほしいと言われました。要するに何に噛まれたかが分からないと治療の仕様が分からないと言うのです。

幸い何もありませんでした。でもそこで泊まった宿舎はすごかったです。イモリのようなものが室内にいたり、種々の虫も飛んでいました。蚊帳が吊って

ありましたが入ってくるんです。あれはすごかった。

加藤 橋の技術は、昔と比べて技術的に特に変わってきていることはありますか？

伊藤 特に最近コストが重視されるといふこと、維持管理がしやすいということ、品質は高くしたい、しかし構造を単純にしてメンテナンスをしやすいようにすることを問題にしています。簡単な例で言えば、中小スパンの橋は主桁を並べて、上に庄版を結合して車を通しますが、その主桁の本数を出来るだけ少なくする少数主桁橋が造られています。それからそれをつないでいる横桁、ラテラルといいますが、そういう構造を出来るだけ省略して単純化し、メンテナンスの時、例えばベイントを塗りなおす時や壊れた時の補修などをしやすい構造にしようということです。低コストでなおかつ品質の高いものを造るかというようなことが最近よく検討されています。

今、構造計算は、計算機で有限要素法を使わずにぶん出来るようになりました。昔はそう簡単に計算できなかった地震動の応答解析も、計算機で出来ます。

しかし、新たな技術的挑戦をするときには実験ももちろん重要です。

加藤 新しい物を造るとき、最近ではデザインも要求されますか？

伊藤 要求されるようになりました。今は、いわゆる橋梁デザインが検討される時代です。以前には、我々は、力学的にきちんと計算をすればきれいな形になると信じていました。しかし、それだけではダメだということ、いろいろなデザインを考えるようになりました。たとえば町の中に歩道橋を造ったとき、形や色を考えます。人がどう感じるかという感性工学も非常に大事だと言われています。私も感性工学会に入っています。構造物は人間が住んでいるところと非常に密接に関係しますから、そ

ういうことを配慮しなければいけない時代だということです。国民の意識が変わってきています。

また、土木分野でそういう構造物を造る、造らないを含め、その構造物が出来上がった場合の効用や環境負荷を議論するようになりました。国民が納得するようになり、必要なものは造る。納得できないものは造らないと。

加藤 もともとは鋼からというお話でしたが、素材もずいぶん変わってきていますか？

伊藤 ずいぶん変わってきているものもあります。新しい材料がいろいろ開発されています。強度もずいぶん上がっています。耐候性鋼材と言って、適合環境下では錆びにくい鋼材もあります。また、耐火鋼と言って、火事になったときでも材料強度が落ちにくい材料もあります。例えば駐車場が崩れてこないように耐火鋼を使ったりします。

そういう技術が開発されたことによって実際に可能になった橋もたくさんあります。

例えば、あの世界一の明石海峡大橋のメインケーブルはピアノ線の束が使われていますが、それが非常に強い力に耐えるようになったので、あの形が出来ました。従来の物で、あのスパンだとすれば、もう一本ワイヤーを増やし二重にしないと出来なかったと言われています。

環境負荷を減らすために

柴田 環境負荷を減らすことが大事になってきたと言われましたが、具体的にはどういう形で進歩して来ているんですか？

伊藤 従来は環境負荷を減らすという発想はありませんでした。従来は安全性、信頼性、そして経済性の三つの項目で検討していました。先ほどお話ししましたように、もう一つ環境負荷を減らすことが要請されるようになってきました。具体的にはCO₂の排出量が指標になっています。今減らさないと地球全体のCO₂の濃度が、将来非常に大きくなって、地球温暖化がすすみ、人間生活に不便をきたすということ、いろいろな分野の人が出来る限り減らす努力をしています。鋼の橋梁を造ることを考えま

「安全性」「信頼性」「経済性」に加えて、
「環境負荷」をいかに減らすか……

大学図書館はハイブリッド＝ライブラリーをめざしています。

しょう。まず鉄鉱石から鋼を精錬しますが、その過程でCO₂が出ます。それを溶接する時にもCO₂が出ます。それをまた現場に持ってきて架設する時にいろいろな重機を使いますから、この重機がガソリンなどを燃やすことによってCO₂が出ます。それらを全部集計し、なおかつ完成後のメンテナンスの時も当然のことながらCO₂が出ます。最後に橋梁を取り壊して再構築する時、廃棄物をどこかに持っていく時、あるいはそれを処分する時、それらを全部換算して、トータル的にCO₂を少なくしようということなのです。

例えば材料使用量を少なくするとか、あるいはリサイクル材を使用すればCO₂の発生は非常に少なくできます。これは省資源・省エネルギーにも通じることです。

ハイブリッドライブラリー

加藤 先生のご専門の話はまだ

まだ尽きませんが、次は図書館が今どうなっているか、これからどうなっていくのか、そんなお話をさせていただきますか？

伊藤 いま大学図書館はハイブリッドライブラリーを目指しています。従来型の図書館は紙を中心としています。書籍や雑誌など紙を中心に収集整理して提供しています。そこへ来館してもらって見ていただくというのが原則でした。ところが情報化社会になり、デジタル化が進み、いわゆる電子図書館機能＝デジタルライブラリーということが唱えられるようになりました。従って、単に紙媒体を収集するだけでなく、いわゆる電子媒体のものも収集する、あるいは収集せずにその所在にリンクを張ります。例えば電子ジャーナルのようなものは有料ですから、図書館が契約し、いろいろ管理しながら利用者に使ってもらいます。使う人は研究室のパソコンで検索して使う、そんな時代になっています。かといって、電

子媒体だけで研究できる人もごく一部はおられるでしょうが、ほとんどの人は紙媒体のものと電子媒体のものの両方を使うことでしょう。また、紙媒体を使うときも、どういうタイトルがどこにあるかという書誌情報を、データベースを使って探すことができます。

大学では紙媒体のものと電子媒体のものと両方が必要ですし、お互いが補完しながら研究を高度化できます。なおかつそういう電子図書館機能を整備するようになると、従来出来なかったことが実現できるようになります。例えば、名古屋大学は今年度約8,000タイトルの外国の電子ジャーナルが見られるようになりましたが、洋雑誌の場合、紙媒体では4,000タイトルほどしかありません。予算が足りないものですから毎年毎年減っていたのです。ところが電子媒体で買うことによって、従来買えなかったものも読めるようになります。なおかつ止めてしまった

ものもそれを取り返し、便利に使えるようになりました。便利というのは、紙よりも早く提供されますし、クロス検索といって、一つの雑誌だけではなく、別の雑誌と同時に検索することも可能です。最近、環境学研究所、情報学研究所など融合領域の研究科も出てきました。理系の人が文系の分野の雑誌を見る、文系の人が理系の雑誌を見るという時代になっています。そういうクロス検索が、時と場所を選ばず、どんな人でもできるようになりました。

新しい分野もサポートできる図書館、あるいは新しい学問の手法もサポートできるハイブリッドライブラリーをぜひつくりたいと思っています。

今、各出版社と国立大学の間で、電子媒体のコンソーシアム（協議会）をつくっています。三年前、国立大学図書館協議会の下に電子ジャーナルタスクフォースというものを、私は立ち上げました。当初は全くコンソーシアムはありませんでしたが、私が主査となって、複数の図書館長と図書館の職員たちとともに電子ジャーナルのタスクフォースを作り、強力に出版社



と交渉しました。同時に、学術情報流通は日々変わりつつあり、そういう変化にどう対応したらいいか相談してきました。現在では約12、000タイトルという世界でも例を見ないほどの大きなコンソーシアムを国立大学図書館に作っています。大手のほとんどの出版社とコンソーシアムを作りました。

ここ二年ほどの間に国立大学はそういう電子ジャーナルの整備が急速に進みました。私がこ

の主査をやっていますが、他の多くの国立大学から感謝されています。

また文部科学省は、そんなに一生懸命やっているのなら確かに必要なものだろうと、予算をつけましようと言って、去年と今年に、電子ジャーナル経費という予算を付けてくれました。それで全部が買えるわけではなく、それを種として学内でさらに資金調達して整備してくださるということなのです。

日本の国立大学は、タスクフォースが作ったコンソーシアムを使い、文科省からのお金も利用して、積極的に電子ジャーナルを整備し、顔の見える図書館になりました。名古屋大学はその先鞭をつけたといえますが、電子媒体に関しては全国の先端を歩いています。

地域社会に開かれた図書館

加藤 最近、図書館の24時間開館が言われています。名古屋大学でも地下鉄が出来ることによつて、地域社会へのいっそうの開放ということが課題になってくると思われます。その点ではいかがでしょうか。

伊藤 地域社会への開放は、名古屋大学は優等生に近いです。開館時間を延長し、平日は夜10時までやっています。夏休みの8月は従来5時で終わっていたのを、それも今年から10時までにしました。これは特に留学生から非常に喜ばれています。

地域社会への解放ということでは、従来から年間2万人ぐらいの学外者に使っていたいています。また学外者にも、学内で支障がない限り、学習用の図書を

除いて市民にも本を貸し出し、期間も公立図書館よりはるかに長く認めています。

24時間開館ですが、たとえばこの近くで言えば豊橋技術科学大学の図書館が24時間開館です。ただ、24時間開館をやっているところを見ていただければわかりますが、小さな図書館です。あるいは、大きな図書館でもごく一部に限つての24時間開館です。名大でも限られた人が入館できるカードを持っていて、限られたところを、限られた目的で使うのであれば多分可能です。しかし、この中央図書館全館を24時間開館というのは、管理の面からしても考えられませんし、他に例がありません。今まで、本部にも、総長にもお願いをして必要な予算を頂いて開館時間を夜10時まで延長してきました。これは全国でも一番遅い部類だと思います。土日開館もおそらく名古屋大学が最初に始めた大学です。

今井 先生は平成12年から館長を勤められ、以来かなり急激に学生へのサービス向上を図られました。一方働く側、現場との関係でリーダーシップの面で、ご苦労がおりだったと思います

大学図書館は《宝庫》

ぜひ、多くの市民の方に来てもらいたい。

が。

伊藤 土日開館については基本的

に外注でスタートしました。

これは私が館長になる前に始

まっています。もちろん職員の方

の理解を得てということですが、

私が館長になってからは、開館

時間を夜8時までだったものを

夜10時まで延長しました。基本

的には5時を過ぎたら学生のアル

バイトを使っています。その

前にやったこととして、朝9時

開館だったものを8時45分開館

に早めました。8時45分から授

業が始まっているのに図書館は

開いていないという状態はおか

しいのではないかと、職員の了解

を得て8時45分から開館する

ことにしました。職員の勤務時

間は8時30からですが、開館準備

がありますので、かなり大変

です。最初にそれを提案した時

は、ずいぶんいろんな問題点が

指摘されて、難しいということ

も言われましたが、周辺の私立

大学など、いろいろな状況を見て、

図書館というのはサービス

業ですから、授業をやっている

のに図書館が開いていないとい

うのはおかしいだろうというこ

とで始めました。そういう実績

があつたものですから、今度は

夜遅くまでやりたいという話に

なつた時、職員も従来に比べれ

ばもちろん忙しい面もあるで

しょうし、いろんな工夫をしな

いと出来ませんが、前向きに受

け止め、理解を得ることができ

ました。ユーザーに目に見える

形でサービスの改善をしたいと

思います。かといって職員だけ

にしわ寄せがいつて、もっと働

きなさいということでは話にな

りません。図書館長というのは、

そういう資源をきちんと持つて

くるのが役割だと思っています。

加藤 今、市民向けにも公開す

るようなイベントのご計画があ

りますか？

伊藤 春と夏、図書館で展示会

とそれに関係した講演会をやつ

ています。非常に好評でいつも

満員です。また、文学研究科な

ど、先生方の協力を得ています

ので、質的にも非常に高いもの

が出来ていると思います。特に

展示室に展示するだけでなく、

電子化をして、外からもイン

ターネットで見られるように電

子展示をしています。大変好評

です。図書館職員もいろいろな

工夫をしていますし、業務的

にもこれは全館体制で行ってい

ます。

加藤 外からはどんな階層の方

が多くいらつしやるんですか？

伊藤 展示会などですか？ そ

れはもちろんその展示する資料

に興味を持つている方が中心に

来られますので、展示や講演の

内容によつて違います。市民の

中でそういう分野でサークル活

動をしているとか、そういうも

のに非常に興味を持つている人

が多いようです。

大学図書館というのはそういう

う人にとつて宝庫のようなもの

でしょうね。機会があれば是非

とも多くの市民の方に来てもら

いたい。一度来られた方は、

次回も来たいから連絡をしてく

れとよく言われます。

加藤 すると12月の地下鉄が

通つてからというのはますます

皆さんいらつしやいますね。

伊藤 そうでしょうね。非常に

来やすくなりますから。

安藤 昨年、先生が金沢で講演

された時にも行きました。大学

図書館についてのお話でした。

伊藤 ああそうでしたね。

安藤 あの時は「学生」がキー

ワードでした。先生は、学生が利

用しなければ意味が無いという

お話をされていました。今後、

「学生」をキーワードにした図書

館の方向性を伺いたいのですが

……。今日も学生と懇談会をさ

れました。差し支えなければ懇

談会ではどんなお話をされまし

たか。

伊藤 今日は大大学院生、学部学

生合わせて8名の方とお話をし

して、たくさん意見と要望を

いただきました。我々がすでに

気づいていて何とかしなければ

いけないと検討していた事項も

ありましたし、気づいていない

視点からの指摘もありました。

使いたいけれど非常に使いに

くいという意見もありました。

これは中央館よりも部局の図書

室に対するクレームのようです

が、

が、

が、

が、

が、

が、

が、



【写真】名古屋大学附属図書館

た。必要な本が先生のところに行ってしまうっており、それを借りるのがなかなか難しいと。すでに附属図書館長名で各部署長にもお願いをし、必ずアクセスできるようにしてあります。校費で買ったものはその教官の個人のものではなく、これは国有財産であり、学内の人はもちろん、学外の人も少なくとも見ることが出来る状況でなければなら

ないとお願ひしてあります。そうは言っても、その先生のところに貸してくださいとは言にくいこともありますし、部局の開館時間が中央館みたいに長くないとか、あるいは図書室が親切にしてくれないという具体的な苦情も聞きました。

快適な学習環境の提供

学生の学習用の空間、快適な学習環境の提供は、大学図書館の大事な役割です。また、いくら電子図書館機能を充実しても、電子媒体だけで研究ができるわけではありません。利用者は学生だけでなく、いろいろな方が来られます。やはり空間としての図書館は必要であり、図書館の「館」としての役割を充分整備しなければいけないと思っています。

その一環として、約20万冊ある学習用図書の見直しを進めています。新刊は、毎年買い足していますが、昔に買ったものの見直しが出来ていませんでした。時間が経つと、当時は正しかったものが、研究が進んで間違

だということがあります。もうこんな本を置いていてはいけない、また改訂版が出ているのにまだ古い版が置いてあるということがあります。そこで、各部署の先生方に時間のある時に来ていただき、自分の専門に最も近い部分について蔵書整備アドバイザーとして、廃棄するもの、歴史的な価値があるもので学生が直接見ない研究用の図書に置いて欲しい、それからこれはもう改訂版がある、あるいは別の新しいものがあるから買い換えたほうが良いものというようにチェックしてもらい、出来るだけアドバイスに従って入れ替えるようにしています。

日常の図書館運営の中で、そういうことをすべてやろうというのは非常に難しいです。図書職員は、本来ならいろいろな分野の専門知識を持つていないといけないのですが、やはり全学問分野を理解することはできませんから、先生方に見ていただくのは非常に大事です。たくさん先生方に熱心に見ていただいています。

全学同窓会の役割

加藤 同窓会に関連してお話をいただけますか。

伊藤 全学同窓会を昨年の10月につくりました。私は工学部・工学研究科同窓会の副会長で、かつ部局長・評議員でしたので、各部署同窓会と松尾総長をはじめ大学全体の調整をすることができました。

卒業生と名古屋大学関係者の同窓会に関する考え方は非常に多様だと思います。大学は、これまで卒業生をはっきり言って放りっぱなしでした。逆に卒業生も、同じ釜の飯を喰った学科レベルの同窓会でいいとか、部局絡みの同窓会はいらないという人も多かったようです。ましてや大学レベルの同窓会なんて意味が無いと言う人もいました。しかし、大学は部局の集合というより、大学が先にあってその中に部局があるというように、法人化後は意識を変える必要があります。これは好むと好まざるとに関わりなく、社会からそういう要請が来てるんです。社会から見たら、工学部、法学部というのではなく、まず名古屋大学という形で見て、名古屋大学は何をやっていますかと聞かれるわけです。

考える力、質問をする力、問題を発見する力、わからないことを把握し、最適なものにその情報を取りにいく。

全学同窓会は、卒業生にただ懇親の場を与えるとか、大学に対するノスタルジーだけではないんです。そういう要素はもちろん同窓会ですからありますが、それより

大学と社会を結ぶための必須の組織として位置付けています。ですから卒業生に対して寄付をください、大学をサポートしてくださいというだけではなく、同窓会も大学もお互いが知り合い、大学の先生方の活躍、卒業生の方々の活躍を情報発信して、かつ社会貢献をする必要があると思います。

今、生涯学習の要請もありますし、産学連携もありますし、卒業生と大学は、もつと連携しなければいけないでしょう。

一方、大学は情報公開とか説明責任があります。卒業生などにさえ理解されていないのに、社会一般にすぐに理解してもらえないわけがありません。大学はこういうことをやっていますと、まず卒業生の方に情報発信する。総合的な連携をすれば、両者にメリットがあります。全学同窓会というのは多

分そういうところに意義があると思います。

法人化になったから、独立でやらなければならぬから助けてくれ、ということをつくったのかという人もいます。そういう面は確かにありますが、それだけではありません。今まであまりにも卒業生をほったらかしていました。だから大学側も卒業生などをサポートしたいということです。そのための必須の組織としての全学同窓会です。

11月2日に第二回目の総会があり、一周年になります。卒業生の中には全学同窓会の活動に大変期待して頂いている方もいます。今まで部局とか学科のものはあったが、大学全体のものがなく、全体として大学がどうなっているのかさっぱり分からなかったから、こういうものが大事なんだと強く期待されていました。一方では、単に屋上屋を重ねているだけじゃないかという意見もあります。もう少し役に立つ事業が目に見える形で立ち上げれば、変わってくる

思います。

個人の能力が試される時代

加藤 学生や大学院生へのアドバイスを、先生の体験も含め、お願いします。若い世代に。

伊藤 若い世代にですか。私も50歳になりましたので、研究室の学生にも最近、次のようなことをよく言っています。「従来は名古屋大学に入れば、はつきり言っていて、あまり勉強しなくても、いいところに就職して、そこから頑張ればみな立派な社会人になれた。実際に、卒業生は本当に立派です。しかしこれからの社会を考えると、卒業した大学や入った会社をバックにということではなく、個人の時代であり、個人の持っている能力が試される時代である。逆に言う会社がつぶれても個人が残るわけで、きちんと自立できる人間、そういうことを意識しながら在学中も勉強してほしい。どこかに所属しているからそれが役に立つというのではなく、その人個人

に能力があるという形で活動するように自分で考えてほしい。上司に言われたことだけをすると、その職場で役に立つ何かをするだけではなく、今自分は何がしたいんだと、ぜひとも個の視点から意識してほしい」と。

私は偉くなりたくありません、ずっとヒラで構いませんから、ずっと好きなことさえできればいいのです、という学生もいます。個の時代だからといって自分勝手に出来るかという大間違いです。会社に入った時、強制されるのが嫌いです、ずっとヒラ社員で結構ですという人に、誰が信用して仕事を任せてくれますか？競争して偉くならないといけないと言っているのではありません。競争に対して、きちんと自分の能力を高めていってほしいです。それは自分が偉くなるためではなくて、社会を良くするためにです。初めから自分勝手にやりたいと、退いてしまうというのは通

りません。

最近、学生にとっても目標設定がしにくい時代ですね。昔なら、就職できなければ即その次の日から食っていけませんでした。それから家族など周りが、やいのやいのと言いました。今では、就



図書館は好きですし、やりがいのある仕事です。図書館を良くすることは大学を良くすることだと思っています。

職せずに一年でも二年でもフリーターをやっている、そういう時代になっていきます。社会が豊かになったことは別に悪いことでもありませんし、目的が非常に見出し難いということも、社会の多様化が進んでいるからですね。多様性があるのはいい時代になったといえます。かといって自分が社会に出て何かをするという自分なりの目標を持つてほしいと思います。自分が本当に一生懸命になれるものを見つけないと個としての能力も高まりません。

波多野 自分は何をしたいとか、これだけは嫌とか、そういう自己主張が出来ないという話をあちこちで聞きます。生協でもそれに対して何かサポートできることはないかと、入学時に適性を知るテストをやっていたいて、今のあなたにはこういう職業が合いそうですとアドバイスしながら、三年か四年かけて進路を決める、そういうふうにもつていければいいと思います。

伊藤 何か好きなことが見つからないといけないでしょう。大学は専攻を選んでいきますから、それに本来興味があるはずですが、こんなことを言うと怒られますが、やはり成績の輪切りでなんとなく来ている人もいます。そうすると自分の専門に興味がもてないとい

う人もいます。その象徴は初等中等教育でしょう。自己主張しないこと、みんなと和を持ってやるのがいい、そういう教育を進めてきましたから。

問題発見能力

よく例に挙げますが、アメリカの小学校ではそうではありません。質問をすることが授業に参加すること、質問しない人は無能力者である、そういう言い方をします。だから大学生になっても、研究者になってもアメリカ人は主張します。中身の無い発表でも上手そうに発表します。

一年間アメリカに留学したとき、向こうの小学校で日本を紹介してほしいと言われて行きました。最初に富士山と新幹線のスライドを映写して見せました。実は先生から事前に、質問があつたらその場で必ず答えてくれと言われていました。そこでスライドを見せ、さあ話そうと思つたらパツと手が挙がりました。で、手をあげた子をあてたら「それ何？」という質問でした。当然これから説明するに決まっていますが、それが許されるのです。日本で、もしそれをやったら怒られます。これは

極端な例ですが、どんなつまらないことでも知らないことを質問することによって、当然分かつている人もいるでしょうが、分からない人には大いに貢献します。

『質問力』という本が出ましたが、それはまさに能力であり、知識を頭の中に入れるのが教育ではありません。考える力、質問をする力、問題を発見する力、どこかに知識があつてそれを応用して解決するのではなく、問題発見能力です。わからないことは何かというところを把握し、質問して最適なところにその情報を取りに行く、そういう過程を大事にする。単なる知識を検索するとか、結果を覚えていくということではなくて思考力です。そういう意味では、日本の初等中等教育はそうなっていないと思います。そうしなければ、総合学習などが出てきました、が、まだそうなっていないと思います。

私の講義では、必ず質問の時間をつくります。学生は恥ずかしがらず質疑応答するという能力が大事だと思います。自分で考える力を大学時代の間に身につけてもらいたいと思います。自分勝手ではなく、そうすることによって全体の活性化につながるからです。

生協にはいろいろ注文が。ーもつと快適な空間、書籍など学術的サポートの充実を。

逆に付和雷同というのか、会社がみんな悪いことをやっているから自分もそれに従ったまでだというような、そんな責任逃れはもうできません。個の責任が問われる時代です。

何か生協さんはそういうこととてありますか？ これから法人化になったら生協も大学の一構成員として認知してもらわなければいけません。私には生協にいろいろ注文があります。

今井 ぜひ。何なりと。

波多野 生協は今まで物を売ったり、食事を提供したり、物の供給が主な仕事でしたが、これからは物とともに、事の提案が必要だと感じています。学生さんが生協と関わったことで、社会に出てからそれがプラスになるように、生協の事業を変えていくという課題が挙がっています。今までのように単に物を販売して終わるというだけではなく、大学の中で十分な何らかの役割を果たしていかなければいけないのではないかと人も

います。その意味では責任が非常に重大になってきています。法人化を機会に、生協も一つス Teppa アップして新たな段階に入っていかなければいけないと考えています。

生協にはいろいろ注文が：

伊藤 生協は大学の構成員が作っている組織です。従来の枠にとらわれない本場に構成員が希望しているもの、生協が得意にしているもの、あるいは従来やっていなかったけれども、まさに生協がやれば非常にうまくいくようなものがたくさんあると思います。そういうものを掘り起こしてもらいたい。我々研究者や大学院生のニーズは、ずっと周辺で言われていることは、もう聞かれています。と思いますが、食事とかアメニティに関して、もっと快適な空間を提供して欲しいということです。

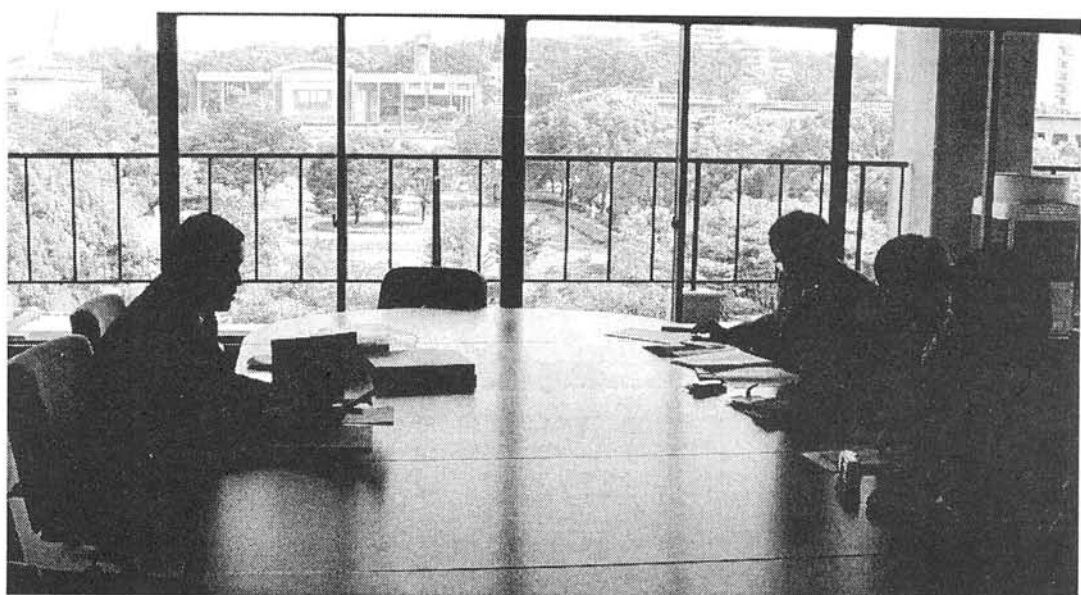
中央図書館は夜10時まで開いているのに、生協に10時まで開

報が無くて、こっちの学生はその情報を知らず、テストが受けられなかった、そんなクレームを聞いています。

きょうも学生との懇談会で、コピー機のこと生協への要望が出ました。部局図書室などでは、今は重い重い冊子を抱えて遠くまで行かなければならず、大学院生も教職員も大変な労力をかけています。だからもっと業務用のコピー機をいれて欲しい、今は明らかに少ないと。もちろん全体でコストが合えばの話です。ここは生協に頑張ってもらいたいところです。

波多野 理学部の方から、B館にコピー機を置いて欲しいと要望を頂きました。そこで昨日設置しました。これからはそういう要望に応えることをやっていかなければいけないと考えています。

伊藤 生協も赤字を出して運営できる組織ではありません。ただし生協の使命として、儲かることだけに従事していればよいというわけではありません。ニーズがあり本場に必要なら、少し無理をしなければいけないところも多分あると思



ます。

ファカルティラウンジも

今井 学内に飲むところ、いわゆる居酒屋みたいなものが無い

んです。うちの理事である大日向先生は、夜9時10時頃、帰りに気軽に一杯飲めるような場所が大学の中にほしいと言われます。そういうファカルティクラブと言いますか、みんなで団

結する場所、そういうリフレッシュできる場所が欲しいと思っています。

伊藤 少なくともそのファカルティラウンジと言うんですかね、そういうものは必要でしょうね。ヨーロッパ、アメリカの大学に行くと必ずファカルティラウンジがあります。職員だけの食堂もあります。そういうゆったりとして、少し良いものを食べて飲める場所というのは必要でしょうね。今、名大サロンをやっています。それが常時できる所があると良いと思います。

今井 そうですね。それはやり方を考えなければいけないですね。運営の仕方も含めて。

伊藤 厚生会館ではできないのですか？ 一部だけどこかのスペースを

使って…。

今井 はい、コンビニ的なお店とか、飲むお店とかそのように区分けして、編成しなおした方が効率がいいと思っています。

伊藤 一時、IB電子情報館の追加建物にコンビニを入れようという話がありましたね？

今井 はいありました。ペンディングでまだ。

伊藤 あれは消えたのでしょうか？
コンビニではなくなったのですね？

今井 はい、情報発信コーナーというところになったと聞いています。

伊藤 生協も入れたほうがいいのですか。競争が出来て。

今井 情報発信コーナーは、ぜひ私どもにも担当させていたいただきたいと思っています。大学のことを紹介する出版会とか博物館さんとか、いろんな機能を地域の方に利用していただきたい。生協もそのためのお手伝いができたらいいと思っています。

伊藤 法人化になればいろいろな自由も利きます。学生にも食堂だけでなく何かあるといいですね。今は多分ファカルティラウンジみたいな話ですけども、学生もなにかそういうところが

あるといいですね。

加藤 今も話していただいています。生協に対して先生からいろいろ言いたいことがあると伺いましたので…。

伊藤 図書館長の立場からすると、もう少し書籍のような学術的な部分をサポートするサービスがあってもいいと思います。注文すれば何でも手に入るのでしょうか？。それでももう少し何かあってもいいのではないかと思います。生活だけではなくて学術目的の分野でも生協の出番があると思います。図書館のやるべきところ、やはり商業ベースでやるべきところがあります。学生が個人で買うものに関しては図書館が売るわけにはいきません。生協は、生活面だけでなく、学術面もたぶんそういう商業ベースと言います。外の世界と直接営業ベースで契約関係を結んでやられると良いと思います。そういうものを模索して、一般生協とは異なる大学生協らしいことが出てくると良いと思います。

大学は、学術的には教育研究の追及、あるいは社会貢献も絡んでいます。その中で生協の社会貢献として言われたのは、情

大学が法人になれば、生協とは、新たに いろいろな連携の仕方があると思います。

報発信で何か、という話がありました。大学独自に出来ること、あるいは同窓会が絡んで出来ることもあります。そういう意味では民間会社が絡んで何かやろうとすれば、まさに生協が窓口になるかもしれません。就職の予備試験なんかはまさにそうです。大学が直接やると、いろいろ難しい問題が出てきますが、生協がやる限りはいいですね。学生のニーズにも合っています。名古屋大学の生協についていね、という声が学生から出てきて日本の大学生協のリーダーシップを取るのが良いと思います。今、名大生協の構成員は全部で2万人くらいですよ。規模はすごいぶん大きい方ですよ。

今井 そうですね。年間供給額ではおよそ54億円です。

伊藤 きちゃんと機能しているんですよ。

波多野 はい。全国の生協の規模では7番目くらいです。

伊藤 そうですか。生協はあまりリスクを負うようなことは出

来ないでしょうけど、いろんな工夫をすればいい案が出てくると思います。大学もそういう意味では変わりつつあるのでそれに対応していつてほしいですね。

今井 これからは大学院大学としてさらに院生が増え、図書館も変わり、生協も福利厚生との関係で括りを変えて、動きを軽くやらないといけないと思っています。もちろん職員の労働条件は悪化しないということを前提に、こういうふうにして利用条件の幅を広げていくか。これはたぶん土日を含めて考えなければなりません。図書館に来て、食べる場所があるかと言えば今はない。ちよつとそれはいいですね。

大学が法人になれば……

伊藤 図書館が夜10時まで開館しているのだから生協も、という話はあつていいと思います。大学が法人化になれば大学自体も非常に形式的な要素も重要

度を増しますし、いろんな連携の仕方もあると思いますよ。大学と生協は、従来はどこかやっぱり一線を退いていることがありました。今度は契約を大学法人と結ばばきちんと出来ることになり。国立大学という性格が変わるわけはありません。国から予算が来て、大学法人には国という出資者がついていることは確かですから。それでも従来出来なかったことが可能になると思います。

今井 今、考えているのは研究科長・館長インタビューをまとめた「名大ブックレット」のようなものを積み重ねていきたいということです。名古屋大学ならではの、その時代その時代の重要な指摘もあります。それを伝えていくことが出来ればいいと思います。

伊藤 そういうことでは全学同窓会も似たようなことを考えています。まだきちんとスタートを切れていないのですが、卒業生などがいったいどういう活動

をしてきたのか？ とか、今どう考えているのかとか。大学との関係はどうだったのか、学生時代が今の自分にどう活かされているのか、同窓会誌とか、ニューズレターとかに出すものをまとめて出版できたらいいなと思っています。だから生協さんも現在の構成員だけでなく卒業生も含めて、独自には多分出来にならないでしょうが、全学同窓会と連携してあるいは大学と連携してできればと思います。別に名古屋大学出版会がありますけれども、そういうものが出てきて外に販売することも可能です。必要なら名大出版会に任せればいいですよ。あそこは完全に外向きの販売、関連書籍の販売でやっているわけですから、生協が編集校正して、名大出版会を経由してそれで外に発信して……と、やつてもかまわないでしょう。

今井 それも一つの方法ですね。

伊藤 今の部局長のインタビューでも、外の卒業生に売ったら、うちの大学の部局長が何をやっているのかどんな人なのかということがよく分かると思

今井 やっぱり説明責任という



図書館は大好き

柴田 先生は、前から図書館の運営に関心をお持ちでしたか？ 先生と図書館の関わりを教えてください。

伊藤 私はもともと図書館大好き人間でした。ちょうど小学校に入る

ものは逆にいえばこういう形で伝えていかないと。社会に責任を負うわけですから

伊藤 部局長新任の記事は、新聞ではたかだか4行くらいです。部局長に選ばれましたという4行程度の記事を見ても、どのような人か分からないでしょう。

『かけはし』が手元に来るので読んでいますが、良く出来ていると思います。特に大峯理学研究科長の記事は、なかなか読みがありました。大峯先生の水の話は知ってはいましたが、非常に面白かったです。

今井 インタビューを始めたのは今年からです。

伊藤 部局長のインタビューしか読んでいません。あとはあまり時間がなくて読めなくて…。

でないわけでもありません。

図書館の管理運営—図書館では経営とっています—については、私が助教になった時、工学部の図書委員になりました。それが一年ずつの交代か、あるいは二年で替わるはずだったのですが、偶然私の上席の先生が委員長になられ、残ってくれと引き止められました。それからずっと図書館の経営に絡んでいます。平成12年にハブニング的に図書館長になりました。

最近では全国で図書館に関する講演を頼まれます。電子ジャーナルの重要性とか、コンソーシアムの形成というような話をします。この夏には、ミュンヘンまで行き、図書館関係の国際会議で講演もしてきました。

私は図書館長になるということはまったく思ってもみませんでした。私は47歳で図書館長になりました。そんな若い図書館長は今までありません。たいていは文系の部局長経験者でした。二生懸命、教育研究に打ち込み、これから研究室を立ち上げなければならぬ時にひどい目に遭っているね、と言う方もありました。まあそんなことは私個人としては思っています。

図書館は好きですし、図書館はやりがいのある仕事です。図書館を良くすることは、大学を良くすることだと思っています。

私は、出張の時以外は、毎朝6時半から7時までには大学に来ます。まず、図書館に来て、8時から8時30分までは研究室で打ち合わせをして、8時30分から17時までは図書館の職員として館長室に常駐しています。私は、昼間は図書館の職員だと言っています。授業と会議は館長室から出かけます。本業は、本来は教授ですが。とりあえず昼間は、本業が図書館の職員だと言っています。それで時間外の夜と土日に研究をして、かろうじて何とかやっているという感じはします。

加藤 貴重なお時間に、いろいろなお話をありがとうございます。

(インタビューは10月2日。聞き手は今井専務理事、加藤理事、室長、箕浦常務理事、波多野購買書籍旅行サービス部長、村瀬南部書籍店長、柴田常任理事。文責は「かけはし」編集委員会にあります)

安曇野ちひろ美術館訪問
ツアーの日程は、2003
年11月2日(日曜日)から3
日(文化の日)の泊2日。
行き先は、戦没画学生慰霊
美術館「無言館」、民宿で、
「そば打ち体験」、そして、安
曇野ちひろ美術館。思い出
に残る周遊旅行であった。

参加者は、生協組合員とその
家族10人。最初の訪問は、「昭和
52年8月、戦時中に東京美術学
校(現・東京芸術大学)に在籍し
戦死した画学生の遺作を集めた
『祈りの画集・戦没画学生の記
録』日本放送出版協会から刊行
されて」広く世間の知ること
になる。少し「無言館」完成までの
経緯を紹介しよう。

同 書の刊行から十数年経つ
た平成六年二月、『信濃
デッサン館』主催の講演
会に、罹病のため昭和十九年に
復員した画家・野見山暁治氏を
招聘、そこで氏が語った「死んだ
仲間たちの絵が今どうなってい
るかと思うと気が気ではない」と
という一言が、現在「無言館」館
主、窪島誠一郎さんの心をゆさ

安曇野ちひろ美術館訪問ツアー報告その一

文 矢田元彦(難処理人工物研究センター)

戦没画学生慰霊美術 館「無言館」印象記

ぶつた。『今からなら間に合うか
もしれません。戦没画学生のご
遺族をいっしょに訪ねません
か』。同年六月頃から野見山氏と
の全国行脚がはじまって、全国
五十七ご遺族のもとから画学生
たちの遺作、遺品約三百点を収
集し終えたのは平成八年春頃の
ことである」と館主は記してい
る。やがて、平成九年五月二日に
「無言館」開館、平成十二年四月
には収蔵庫「時の庫(くら)」が
完成している。

戦 没画学生慰霊美術館「無
言館」のホームページ
に、「中世のヨーロッパ
の僧院を思わせる建物」と紹介
された入り口に向う。白いロー

ドがつづいていた。高ま
る胸を抑え、つま先たて
て歩く。館の前庭に、一本
のコスモスが、祈ってい
るかのように、空を仰い
で揺れていた。

私が一番印象深い言葉が、入
り口の日高安典「裸婦」に、短く
添えてあった。

「あと5分、あと10分、この絵
を描きつづけていたい。外では
出征兵士を送る日の丸の小旗が
ふられていた。生きて帰ってき
たら必ず、この絵の続きを描く
から、安典はモデルをつとめて
くれた恋人に、そっくりのこし
て、戦地に発った。しかし、安典
は帰ってこれなかった。――日



無言館にて

今 高安典は、1918(大正7)鹿
児島県で生まれ、1945年(昭
和20)4月19日フィリピン・ル
ソン島において戦死」とある。

回の美術館訪問ツアーの
行程により、晩秋の落日
の刻一刻迫りくる時間の
中、さながら、日高安典の思いを
追体験しながら、太平洋戦争で
志し半ばに戦死した画学生80余
名、600余点の遺作、遺品を収
蔵する「無言館」を、急いで見て

無

回り外に出た。

言館、信州・塩田平の周
辺の紅葉は早や、急いで
散りはじ

めていた。そこ
で、一首。

◎山里の紅葉

且つ散る美
術館 幾多
の兵士行き
て帰らず

元彦

平成12年4月
に完成したとい
う、収蔵庫「時の
庫(くら)」に耳を
澄ませば、寝息を
たてて、過ぎし時
間は眠っているよ
うだ。そこで、一
句を作る。

◎外は秋

眠りし時間

時の蔵 元彦

戦没画学生は、

次回で紹介する「岩崎ちひろ」以
上に、与えられた使命に純粹で、
しかも責任感の強い人間だった
かも知れない。人々に感動を与

えることのできる魂とは、何か
と追い求めていたことが、少し
解ったようにように思える。そ



無言館を観る参加者

れは、「無言館」の中にあつた。

力を願う私の心と共鳴
する」。かつて読んだ、修

毎

道女の日記の言葉が蘇る。「今日

一日の生涯は、すべて終わった。
神様、もし、私に許されるなら
『明日という付録が与えられたな
ら』、どんなに素晴らしい事だろ
う」と、言う意味の言葉が記され
ていた。

私は「明日のあることを疑わ
ない自分を恥じた」。あの時の感
動が今、重なる。「志は老いず、
忍耐して、一筋に努力する人に」
なろうと誓うのであつた。

帰宅し「無言館」を想って一句
つくりし。

◎星月夜 無言の絵画

ベチャクチャと 元彦

最後に、無言館館主窪島誠一
郎氏の経歴と、主な著作を紹介
しよう。

窪島誠一郎氏は、1941年、
東京生まれ、「信濃デッサン館」
の館主も兼ねる。主な著書に

「父への手紙」(筑摩書房)

「わが愛する天折画家たち」

(講談社)

「絵画放浪」(小沢書店)

「無言館」、「無言館」ものが
たり」(産経児童出版文化賞JR
賞) などがある。

野

窪島誠一郎著無言館戦没画学

生「祈りの絵」(講談社)より抜粋

見山先生には黙っていた
けれども、先生の亡き画

集」にうたれて「無言館」建設を
思い立った私の心奥には、戦争
にとことこ苦しめられ、口にい
えぬ辛酸をなめながら貰い子の
私を慈育し、報われぬまゝ先年
この世を去った両親への憐れみ
があつたと思う。憐れみとい
うのも甘い言い回しだけれども、
私は死んでいった画学生のどの
絵にも、あふれるような存命の
歎びと肉親への感謝を発見して
瞼がぬれたのだつた。親が生
きているうち、何一つ孝行せず、す
べてを子の手柄のように考えて
きた自分の姿をふりかえってや
るせなかつた。同時に、父や母の
背後にあつた「戦争」をも一顧だ
にしようとしなかつた自分がな
さけなかつた。全国をめぐる
戦没画学生の遺作を蒐めること
は、そんな私自身の五十数年に
わたる思いあがりの歴を、もう
一度みつめ直すきっかけになる
のではなからうか。」

来てみて

重量制限

このごろのスポーツは、重量制限があることが多くなっている。公平なようなそうでないような。相撲には基本的に制限はないが、このごろ世界選手権などという場合に制限が設けられている。大相撲で、こういう制限があったら、よほど様子が違っていたと思う。このごろ思うには、大相撲は、入門の折りの重量制限を下限ではなく、上限を決めるべきでないかと思う。200キロを超えるような巨体、怪我のもとではないか。むかしは、40貫(150キロ)を超えような力士は数えるほどだったが、今はそれ以下の力士を探す方が難しい。上限を決めればもう少しきびきびした面白い相撲が見られるような気がするし、休場も少なくなるだろう。検討して欲しい。空手にも重量制限はない。有ってもいいような気がするけれども。

飛行機に乗るのに、隣に巨大な人に来られたら事だ。押しつぶされそう。日本では余り見ないが、小錦級の人が目白押しのアメリカやカナダでは現実にあり得る。空港

待合室の椅子は、幅が、80センチ以上あるように思う。ただ、機内はそうはいかない。せいぜい60センチだ。荷物などには重量制限があるのに、乗る人にはない。なかなか難しいのだから、何となく不公平。あれだけ大きななるには沢山栄養をとったのだろうし、あれを維持しようと努力するのであれば、並大抵ではなからうが、私の少なくとも三倍、ひよつとすると四倍近い人に近寄られると、威圧感と、気の毒な感じと入り交じった気持ちになる。

つい最近、自分がこんなに太って不健康になったのは、そういう食品を提供したメーカーが悪いという訴えがあった。裁判の結果については聞いたような気もするが、正確なことは覚えていない。こんな事を訴えられては堪るまいし、訴える方もよくも恥ずかしくないものと思う。もつともその恥ずかしさをてこに自分の意志を強くするつもりでもあったのかもしれない。

昔の(変な・悪い)為政者なら、体重に税金を掛けたかも知れない。しかし、冗談でなく、それを考えることは、市民の健康を守る上で必要かも知れない。

チップ

今、日本では普通チップの習慣がないのはとても残念なことだ。今度カナダで、その習慣の煩わしさを味わってしみじみそう思った。旅館でもホテルでも、日本では、チップを置く人もあるかも知れないが、強要はされない。インドネシアでは、ルピアが安いからメイクベットのチップも楽だ。中国では置いておいたチップが残っていた。

日本では食事をする、勘定書の中にもうちゃんと奉仕料なる項目があるから、チップを払う人もいるのだから、私は請求通りにしか払わない。それで特に問題があるわけではない。ところが、カナダでは、請求額に応じて、一割から二割のチップを上乗せして払わなければならない。決まっているわけではなく、そのサービスに応じて払うのだから、ある意味で、払いたくもない奉仕料が決まっているのより合理的なのかも知れないが、私には煩わしかった。

こんな事があり、とても興味深かった。中華料理店で娘夫婦と三人で食事をした。ご承知のように、中華料理は一品一品がずいぶん量である。ただ、その

店は、中国人がほとんどで、大部分が半白人系の客であった。それ故か、それほど大した量ではなかったが、それでも食べきれなかった。残りを持ち帰るつもりで片づけを頼んだ。しかし、無視したのか、聞き損なったのか、その持ち帰り分がこない。それで、頼んだ娘が腹を立てた。それに対して何の謝りもない。それで気分を害した娘はチップ0と書いて渡した。それを見て、店員がどうしてかと聞く。これこれこういうわけだと説明したら、その店員は納得した。ところが、娘の主人が、それはいかんという。やっぱりチップを払えという。二人は、丁々発止、ついに、婿がおれたが、心底は納得していない。何時までも同じ事を言って、娘を怒らせていた。とても面白かった。男と女の差を感じた。

スパスパトゥ Buka sepatu

インドネシア語をテープで聞いていたとき、こういう部分があった。「靴を脱げ」ということだ。イギリス育ちの人に対して、家にはいるときに、靴を脱いで、スリッパを使うという習慣を説

明している部分だ。

インドネシアに行つてその意味が分かった。玄関を開けてはいると、殆ど地面と同じ高さにタイルや木で床が張られている。いわゆる上がり框などという物が無い。どこからが上で、何処までが下かの区別が付かない。下駄箱なる物もなく、脱いだ靴はそこらに放つてある。しかし、家の中では裸足になる。ホテルに尋ねてきた人の中にも靴を脱いで、素足になる人がいる。

今度カナダに来てみて、やっぱり同じ。素足になつてゐる人もいれば、靴履きのままの人もある。ちつとも気にならないらしい。家の人が素足で居るところに、外から来た人が靴を履いたまま全然気に掛けていない様子である。それでかどうか知らないが、ホテルにもスリッパがない。しかし、靴履きのままではどうも落ち着かない。裸足になるほか無い。スリッパを頼んだら、随分してから出てきたけれども。

途中、デトロイトの空港で、下は絨毯が敷き詰めてはあるが、普通に人々が、靴を履いて歩いているところに、平気でうつぶせになつて寝ている人がいた。

一寸真似できない。楽は楽だろうけれども。学生時代に、夜行列車で、床に新聞を敷いて寝たことを思い出したりして見ていた。

日本の家屋の作りで、上がり框があり、下駄箱(本当は靴箱だが)があるのは我々には当たり前だが、まことに素晴らしいことだ。このごろは、外は殆どアスファルトかコンクリートで靴に泥が付くなどということはなく、見た目には、全然分らないが、やはり、上下内外の区別は欲しいものだ。地べたにぺたんこ座つて何かを食べたり話をしてたりしている人たちが居るが、やっぱり抵抗を覚える。こつちが悪いのだろうか。

検査

以前、健康診断のことを「身体検査」と言つていた。今でも年寄りはそのう。私なども言いかねない。入学試験などでも「学力検査」などと言う。さらに、試験のある部屋を「検査室」などと言ひ、部屋にも、「第...検査室」などと書いてあつた。それに違和感を感じなかつたのかも知れない。しかし、「血液検査」「尿検査」ぐらいならともかく、入学試験での、「検査室」だけは強い違和感を感じ、センター入試の折

りに試験室と改めさせたような記憶がある。試験場とあるのに、何故わざわざ検査室と言ひ換えるのか、不審だつた。これは、みんなもそう思つたのか、直ぐ変わった。

そもそも、検査などということとは人間を物として考えるのか。中国の文化大革命の頃、「自己批判」をさせられた人が沢山居たが、それを「自己検査」と言つていたそう。それで、中国人は、日本人が、いろいろな物の具合などを調べてみると言うつもりで、「一寸検査してみましよう」と言つたのに吃驚したと言うことを聞いた。

ところで、昨今、海外旅行でなくとも、飛行機に乗りとうとするの大変だ。悪いのが居るといふので、仕方がないのかも知れないが、アメリカでの検査はいささか度を過している。人間性悪説も徹底している。それを招いたのが、主として彼ら自らだということも知つて欲しいと思ふ。

今回、カナダに行くのにアメリカ経由だつた。日本出国の折にも、ベルトの金具とボールペンで引つかかつた。デトロイトでは、靴まで脱がされ、預かつてあつたスーツケースの中味も一々調べられた。帰りの検査は

奇妙だ。預かるスーツケースの検査はない。手荷物は、モントリオールで、アメリカが検査する。既にチェックの終わつてゐるものを搭乗口を通つて飛行機に乗る前にもう一度念入りに調べられた。余程怪しく見えたのだらう。光栄だが、まことに不愉快の上ない。きちんと包んで入れておいた土産物を一々開いて、グチャグチャに包む。きちんと包めと言つたが知らぬ顔。財布の中身まで調べる。

これで今度の旅行の全てが失われた。むかつきが暫く収まらない。どうでもいいことだと、そんなに腹を立てなくても一方では思ひつ、他方では、もう飛行機には乗るまい、少なくともアメリカには来まいと思ふ。その一方で、何とか、一々チェックを受けなくてもいいようにするにはどうしようかなども考える。今回も、出来るだけ考えたのだけれども。

交通違反などをしてお巡りさんにとつちめられ、もう、警察などに協力してやるものかと思つた人が多いと聞くが、こういう検査の必要悪は認めるが、もう少し何とかならないか。とにかく、今回の旅行の総決算は「不愉快」であつた。(田)

－ 私の百名山 －

トムラウシ (2141 m)

中條 保 (農学部)

はじめに

早いもので「私の百名山」も掲載を始めて6年と半年を迎える。そして私も来年3月で定年を迎える。山に登り始めて43年の歳月が流れようとしている。年間10山に登ったとしても相当な数になる。ただし、私の場合は、多くの山に登るよりも、多くの時間を山で過ごしたいから、同じ山でも何度も登っている。若い頃は北アルプス、中央アルプス、南アルプスに繰り返し登る。通年のホームグラウンドは鈴鹿山系であった。そして近年は関東の山々へ東京への所用を利用して単独で登っている。挙げてみるなら丹沢へ4度、天城へ4度、奥日光へは5度、那須へは2度、筑波へは3度、箱根へは5度というふうなスケジュールを調整し

ながら森に身を置いてきた。年少の頃は、夏は日本海で朝から夕方まで泳ぎ、潜り、天然の「カキ」や天草を取っていた。長じては山に身を置くことの安らぎを覚え、今日まで海に入らない年はあっても山に入らない年はなかった。気が付けば還暦を迎えていた。これからも健康に留意して年相応の山登りを続け

たいものだと思っている。

自然の魅力

最近では、琵琶湖でのヨット事故が大きく報道された。高速道路での多重衝突事故や交通事故は日常茶飯事で、一度報道されるとそれ以上はあまり報道されない。ところが、山や海の自然が対象の事故は、報道を受

トムラウシ山周辺概念図



け取る側に衝撃が大きい。それは非日常の生活で、危険度をはらんだ冒険性が潜むことに対する非難もある。人は、日常の生活から解放され、多少冒険性を伴う非日常の生活に挑む。その程度は、訓練や経験の度合い、体力との相談でもある。決して過信は禁物であるが、臆してばかりはいられない。その両者の境界で達成感を味わっているのかもしれない。何故事故は起きたのか。何に気を付ければよいのか。人は他人の失敗から貴重な教訓を学ぼうとして、その記事に興味を抱く。しばらくはその教訓を生かすのであるが、やがてそれを忘れてしまう。

トムラウシ山

北海道では大雪山系の主峰旭岳に次ぐ高峰。アイヌ語で「水垢の多い」とか「水苔、湯花」、あるいは「花の群生するところ」をさすという。北海道の最高峰旭岳を含む大雪山系から南方に派生する石狩・十勝連峰を10kmほど南下した稜線上にあり、大変に山深い。北海道の屋根を構

成する大雪山系が東西に横隊し、その西の端から南に十勝、日高の山系が交わり、南端は襟裳岬に落ち込む。トムラウシはその接点、旭岳と十勝岳の中間辺りにある。10年ほど前からトムラウシという名前は聞いてはいたが、登ろうとは考えたこともなかった。これが百名山であることも知らなかったが、ここ数年百名山であることを意識していた。北海道の地名はアイヌの人たちが付けた名前が残っていて、発音に漢字を当てるか、カタカナのままで残っている。

「北海道の食と文化を訪ねる企画」に参加

昨年の9月中旬に大学生協北海道事業連合が全国の大学生協に呼びかけて「北海道の食と文化を訪ねる企画」を実施した。私もこれに参加し、十勝・帯広の酪農家を訪ね、帯広畜産大学の生協食堂で、講演と食文化の試食会を堪能した。広大な北海道の農地で生産されたジャガイモや麦、トウモロコシ、北の海の海産物、どれも新鮮で優良な食材を

用いて幾種類ものコロツケや刺身、カニなど、ほつぺたが落ちそうになる。その夜は十勝清水町営の温泉で一泊して、翌日は牧場見学と「牛トロ井」の工場見学をした。牛にストレスをかけないで、ゆったりと広い牛舎でのんびりと牧草で育てる。濃厚飼料の投与など無理して巨大化を図る肥育はしない。極力、牧草と国産穀類で健康な牛を育てるという説明に説得力を感じる。

電車で旭川へ

2日間の日程を終えて、私はバスを降り山の旅へ、根室本線十勝清水駅から新得までは、10分ほどの距離である。この新得はトムラウシ登山口へのルートとしては最もポプユラーな駅であるが、バスの便がなく、十勝川に沿って50〜60kmほど入らなないと行けないがタクシーで入るには費用がかかりすぎる。地元の人々は皆、車で入山するようだ。よそ者の私は此処は通過し、狩勝峠を越えて上川盆地に入る。南富良野駅で富良野線に乗り換え、旭川に向かう。翌日から縦走

する十勝岳や富良野岳、オプタテシケ山やトムラウシ山の石狩山系が電車の車窓から東に併走して良く見渡せる。電車は西の夕張山地とに挟まれた富良野、美瑛の上川盆地を豊かな丘陵地を従えのどかに走ってゆく。1両編成のワンマンカーは地元の人たちが生徒達で満員だ。立つまま上富良野まで行き、そこで座れた。中富良野と上富良野で大勢が下車し、また乗車してきた。十勝連山が実によく見渡せた。

旭川駅到着

旭川は、初めて大雪山系に登って以来、4度目の訪問だろうか。あのときはナナカマドの街路樹が赤い実を付けて紅葉しているのを不思議に眺めたものだ。中部地方では1500m以上の信州や飛騨、美濃の山に行かなければ見られないからだ。緯度というものを再認識する大きな驚きだった。駅前の4番乗り場から旭岳、天人峡方面行きのバスが出る。1時間あまりの待ち時間の間にもビルの谷

間の怪しい雲行きは、ついに雨になってしまった。バス停でバスを待っているとしたような年格好の単独登山者が到着バスから降りてきた。どちらに登ったかを聞くと「旭岳から十勝岳まで入っていた」という。ほぼ似たようなコースを歩く私は、山の様子を尋ねる。これから「旭岳に車を取りに行く」という彼の説明によれば「2、3日雨風が激しく化雲岳避難小屋で2泊した」そうだ。「トムラウシで中高年女性が発死した」という。秋田からの中年女性2名は、「明日旭岳から黒岳の縦走をする」という。バスは他に温泉客や観光客など15人ほどを乗せて15時10分出発。

天人峡温泉到着

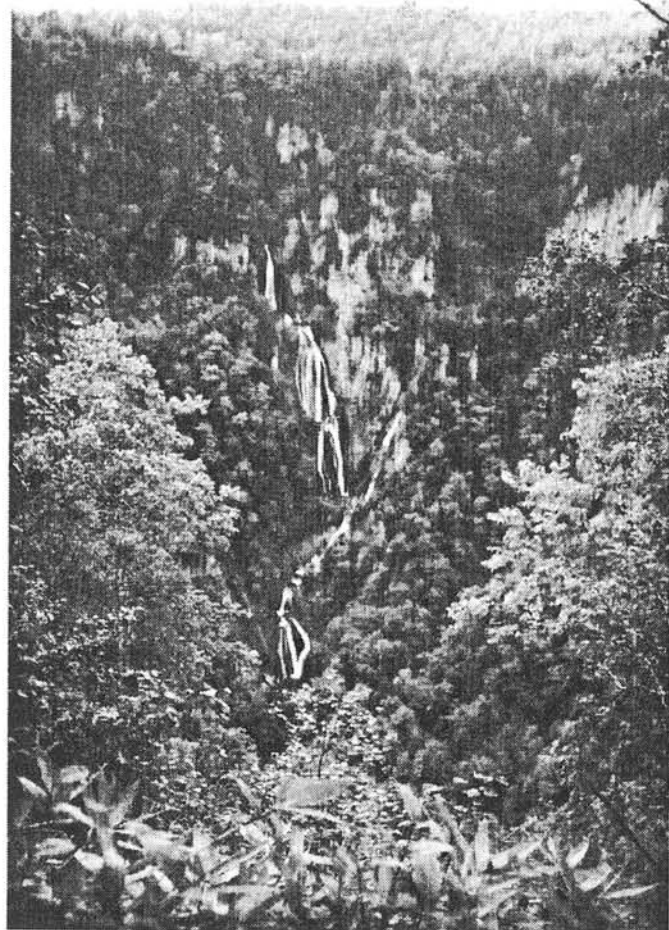
16時20分、バスは天人峡温泉バス停に到着した。私を含め数人の乗客が降りた。バスはそのままUターンして、旭岳温泉(旧名称勇駒別温泉)に向かう。私は、橋を渡って、もう一軒のホテルの手前で、右側の急な山道をジグザクに登ってゆく。そのすぐ下まで道路工事の最中であつ

た。登り初めて15分ほどで日本語の余り話せない体格の良い外国人青年3人が下つてきた。30分ほど登るとかなりの汗をかいた。尾根筋の平らな部分に出ると路脇の2mほどに深く茂ったクマザサの中にホテルのものとと思われる大きなテレビアンテナが立ててある。そこから「1200m先が滝見台」であるとの表示あり。そこまで行つてテントを張ることにする。

滝見台の先でテント泊

17時ちように滝見台に到着する。忠別川を挟んで旭岳温泉方面から忠別川に流れ落ちる「羽衣ノ滝」が正面に白く衣を流したようによく見える。その見事な滝を一望にする地点は50平方メートルほどの空き地と木製ベンチが置いてある。テントを張るのには格好の場所であるが、この時間からは訪づれる人もい

羽衣の滝



ないだろうが、万が一にも観光地だからと遠慮する。100mほど先のクマザサの中にテントを張ることにする。17時20分、大きなモミや梅の木の根本にテントを設営する。ラジオで相撲を聞きながら明日の食事に用を足す。夕食はパックを二個暖める。夕食はパン一個とコーヒータンで済ませる。18時ちようにシユラフに入る。自宅から生協コーヒータン1リットル、お茶1リットルを持

参。水は十勝清水で5リットル準備したので合計7リットルを背負うことになる。稜線では水は入手困難な場合が多く、とくに初めての山は様子が多分らないので十分な準備に過ぎることはない。

山での二日目

夜半11時に一度目覚める。よく眠った。4時間は眠っただろう。トイレを済ませて再び眠る。

森林の樹冠とクマザサに囲まれて暖かったが、明け方次第に寒くなる。ウールのシャツを着るもやはり寒い。稜線でのテント設営が今から不安になる。1時間毎に時計を見る。午前3時30分起床。暖かいみそ汁2個分を作る。一昨日のごちそうが未だおなかに残っている。ラジオからはナツメロが流れ、それを聴きながらみそ汁を飲む。今日のルートは初めてなので、どれだけ時間を費やすか不明なので、とにかく早い行動が求められる。テントを撤収し、トイレを済ませて午前4時50分一夜の宿を後にする。

地元の人？

歩き始めて20分、忠別川の深い谷間を挟んでしばらくはその高台の縁を行く。人の気配で振り向くと30代半ば頃の中年の人が単独で駆けるように登ってきて私を追い越していった。小さなサブリュック1個で、短パン、ランニング姿、足下はスパイクシューズのような靴である。あまりの軽装備にあっけにとられる。

る。雨具と水筒と食事（おむすび）程度は持っているのだろう。ピストンなのかと思っていたら、化雲岳から旭岳を周遊して天人峡に下山するそうである。普通なら1泊2日のコースであるが、陸上のトレッキングなのかもしれない。これは、後で化雲岳手前で若いカメラマンに聞いた話である。重装備の私はゆっくり行くしかない。

最初の休憩

5時40分、忠別川の深い溪谷に沿って化雲岳やトムラウシの西斜面をゆつくりと南東方面に登ってゆく。小化雲岳の1925mピークを望む地点で小休止。コーヒー牛乳とポカリスエットを各50ccほど飲む。気温は低いが登りなのでシャツは汗ばむ。10分の休憩で出発する。快調なペースである。

二回目の休憩

6時50分、針葉樹林がとぎれりと巨大なダケカンバの疎林となり、ジクザクをきつて稜線に出た。西に旭川、美瑛方面は低い

雲に覆われ、その向こう（雲の上）に芦別、夕張の山並みが見える。手前には忠別川の三角州が広がり、右手には緑の樹林帯の中に柱状節理の白い岩肌がピルのように光って聳えている。水の少ない川は白い砂原のように見える。その中にセメント工場のビルだけがあつて、残りは緑のベルトで右手の旭岳方面に緩やかに続いている。その景色を眺めながら、コーヒー牛乳で喉を潤し、カリンでエネルギーを補給する。7時05分に出発する。

三回目の休憩

クマザサを過ぎると10分ほどで木道に入る。15cmほどの角柱を4本渡した立派な木道の脇には色あざやかなリンドウが青い宝石のように輝いている。草モミジの木道は30分ほどで再び地道に降りた。旭岳の山頂が見え、丈の短くなったクマザサにハイマツが混じり主稜線が近いことを伺わせた。「天人峡5・5km、トムラウシ11km」の表示が湿原の中にあり。未だ路は遠い。7

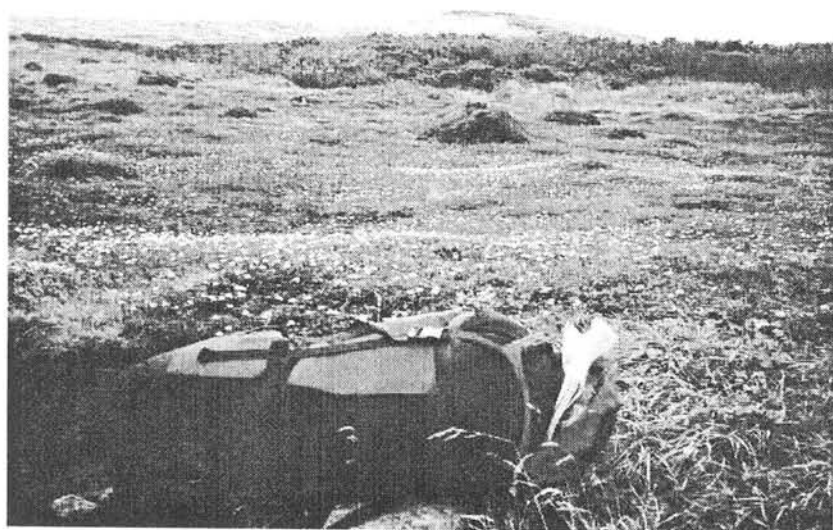
時50分から8時05分まで休憩。

四回目の休憩

9時から30分、「天人峡8km、トムラウシ8・5km」の表示地点で朝食にする。歩行中は、常にラジオを聞きながら歩く。熊が怖いので存在を知らせるために単独山行では必需品である。そのラジオは今朝からサロマ湖での自衛隊員の事故を繰り返し告げている。「2人死亡、5人行方不明」10人のりのプレジャーボートでの釣りで、旭川の陸上自衛隊員だそう。背丈を超すハイマツは北海道の特徴だ。そのハイマツの路傍で昨夜暖めて置いた赤飯パックにやきとり缶詰、コーヒー牛乳、麦茶で朝食。家から持参した各1リットルはここで飲み干した。残りは十勝清水で汲んできた水5リットルだが、昨夜と今朝のみそ汁に1リットル使用した。この後は沼の水を使用するしかない。

五回目の休憩

10時15分、ウラシマツツジの紅葉とチングルマの白い穂先が



あまりにも美しいので、休憩をして写真を一枚撮る。地図の上では「第一公園」のあたりだろうか。夏のお花畑はさぞ綺麗だろうと想像できた。30分に出発して30分後の11時、目指すトムラウシが初めて姿を現す。巨大な岩の鎧をまとったような姿が、取ロツパの城塞のような姿が、取り付き難い砦のようどこから

登るのかアプローチが描けない。目の前には化雲岳の入道のようなピークが聳え、すぐ左手に五色岳、さらにその左手に忠別岳が見えたがすぐ雲に隠れた。美しい庭園が広がる。岩の中にウラシマツツジの赤と冬を前に白い枯草が絨毯の模様のようなだ。

若いカメラマン

11時20分、若いカメラマン氏と話し込む。ヒサゴ沼の避難小屋で泊まり込んで写真を撮っていて、多くの情報を授けてくれた。とても話し好きのようで、軽装の中年の行動も彼から聞いたのである。千葉からの2人が天人峽へ下山していった。前日に旭岳ロープウェイから入って化雲岳避難小屋（1000円）に泊って、天人峽に下ってゆくという。このコースは一般的らしい。もう一泊ヒサゴ沼避難小屋に泊まればトムラウシにも登れるのに、と話し合う。11時45分、先ほどからトムラウシは見え隠れしていたが雲の晴れ間に全山が見渡せたので急いで写真を撮る。4人の青年グループが通過

してゆく（1人女性を含む）ヘルメット持参なので沢登りのグループか。

化雲岳山頂

左手に緩やかなカーブを描いて登ってゆくと左手が大きく切れて落ち込む先に巨岩を乗せた化雲岳山頂に12時ちょうどに到着する。

この山が五色岳を経由して旭岳へ行く縦走コースと天人峽へ下るコースと南にトムラウシ方面への縦走路との三叉路になっている。北側と西側が大きくえぐれて化雲沢川となつて忠別川に注ぐ。その谷間をのぞき込むと、赤や黄色の紅葉が始

まって美しい。天人峽より11.5km、トムラウシへ5.0kmの標識あり。見えているがまだトムラウシは遠い。美しい「神遊びの庭」を過ぎると2人の中年の登山者が五色への分岐に荷物を置

トムラウシ山



いて化雲岳に登っていった。ヒサゴに泊ってトムラウシに登ってきたのだろう。ヒサゴ沼の分岐でもリュックを3個置いて化雲岳かトムラウシへ向かっているのだろうか。



昼食休憩

13時10分、お腹が空いたので「ロックガーデン」という火山岩に覆われた岩陰で昼食休憩にする。そこはヒサゴ沼の避難小屋の全貌を見下ろす位置だ。赤飯とミカンの缶詰がおいしい。昼食休憩を30分で済ませ、岩ばかりの路を小さな上り下りを繰り返しながら30分ほど進むと14時に「天沼」という岩に囲まれた小さな池に出た。沼の南の縁を東に回り込み火山岩の岩山を回って南に出ると再び急な岩山を登る。トムラウシの山頂を前にし

北沼

15時15分、北沼到着。岩山を下ってゆくとみなみと水を湛えた北沼があり青年が水を補給しているようだった。南沼キャンプ指定場所は水がないので本来は此処で給水すべきであったが案内不足で汲まずに行く。私は沼の南東の標識に従い荷物を背負ったまま山頂を目指す。本当は、ここで水を補給して右手の方向の幕営地に行き、テントを張ってから山頂をピストンすれば最も楽なのであるが、初めての私には地形も状況もわからなかった。雲が低くたれ込めて、見通しが悪く、寒さがつのる。私はそこに荷物を下ろして、山頂への

たピークで小休止、ポカリスエット100ccがおいしい。岩の間でナキウサギが良くなく、1tから10tくらい大きな岩の上を飛ぶように上り下りする。雨天なら滑って危険だ。

15時15分、北沼到着。岩山を下ってゆくとみなみと水を湛えた北沼があり青年が水を補給しているようだった。南沼キャンプ指定場所は水がないので本来は此処で給水すべきであったが案内不足で汲まずに行く。私は沼の南東の標識に従い荷物を背負ったまま山頂を目指す。本当は、ここで水を補給して右手の方向の幕営地に行き、テントを張ってから山頂をピストンすれば最も楽なのであるが、初めての私には地形も状況もわからなかった。雲が低くたれ込めて、見通しが悪く、寒さがつのる。私はそこに荷物を下ろして、山頂への

トムラウシ山山頂



路を確認のため5分間の小休止。トムラウシ山0.6km、忠別岳1.4km、オプタテシケ山へ15.1kmの標識と地図を確認。山頂にかなり近いところにいることは確かだが、山頂は見えない。道は岩路なので踏み跡がはっきりしない。標識の方向に歩を進める。

ついに山頂

15時55分、ついに目指すトムラウシ山頂に到着。雲が厚く、今にも降り出しそうな気配になってきた。誰も歩いていない山の中は、少し不安である。

山頂の標識は紛れもなくトムラウシである。遠い道のりだった。麓から仰ぎ見ることでできない遠望を許さない山である。火口は東に切れていて水はない。大きな火山岩に囲まれた恐ろしいような様相だ。岩の目を伝う路なので雨の日は特に怖い。ガスに覆われただけでも方角や進むべき先が見えないので怖い。16時05分、山頂を後にした私も下山路を間違えてしまった。来た道を北沼に戻るのが時間的にロスなので、直下に見えた道に下ろうとして、岩伝いに迷い込んだのだ。
(次号に続く)

癌

動物である人間はいずれ、どんなに元気な人も死ぬことだけは確実だけれども、その死期も、まして、自分がどのように死ぬかということも、普通は全然分らない。

最近読んだものに、「癌で死ぬのは幸せ」といった趣旨のことがあった。事故で死ぬのは、長煩いで寝たきりの人からみると却ってうらやましく思われるのかも知れないが、その人は何の意思も伝えずにあの世に行ってしまう。それは自分にとっても、

周りの者にとっても残念至極だろう。どうせ死んでしまえば、死んだ者には同じとはいえ、同じ事ならあとの者に迷惑を掛けずに行きたいと思うのが人情だ。勿論、そう思わない人もいるだ

ろうけれども。人の生きた証は、人々の記憶の中にある。それはいわゆる

「業」と言ってもいいものだ。だから、やはり、いい思いをこの世に残しておきたい。変なやつだった、悪いやつだったと言われるよりも。

その点、癌はほぼ計画的に死期をはかることが出来るというのだ。確かに、大体のことは分かるようだ。勿論、癌に安住してしまい、仲良くなつて、お医者さんの言うようには逝かない人もいるにはいる。しかし、それならそれでいい。死ぬ準備が心おきなく出来るのだから。とにかく、後始末をきちんとしておくことが出来るということは癌特有だ。その時になつてうるたえてしまつて、取り乱さないようにしたいと思つてゐる。

そう思うと何となく気が楽になり、癌を畏れる気持ちも失せる。何とか、癌で死にたいときえ思う。あの忌み嫌われる癌で。只、一体、何の癌でと言つと、未だそこまでは考えていない。とても痛い癌もあると言つからなるべくお手柔らかに願いたいと思う。

(丁)

教職員委員会活動日誌 (2003 年 9・10 月)

月 日	事 項	場 所
9 月 1 日～3 日	防災展示館	ゆ～どん
5 日(金)	全員集会 (講演「地震その時あなたは」福和教授)	南部食堂ホール
8 日(月)	9 月度常任理事会	ゆ～どん
10 日(水)	9 月度第 1 回教職員委員会	ゆ～どん
19～20 日	京都大学生協教職員委員会との交流	G S 東山・岩村見学
22 日(月)	9 月度理事会	フレンドリィ南部食堂
24 日(水)	9 月度第 2 回教職員委員会	ゆ～どん
26 日(金)	激甚災害ワーキング会議	ゆ～どん
30 日(火)	I B カフェ検討プロジェクト	ゆ～どん
10 月 1 日(水)	総代会議	理系中華食堂ホール
2 日(木)	総代会議	グリーンサロン東山
2 日(木)	伊藤図書館長インタビュー	図書館長室
2 日(木)	経営改革プロジェクト	ゆ～どん
6 日(月)	10 月度常任理事会	ゆ～どん
8 日(水)	10 月度第 1 回教職員委員会	ゆ～どん
11 日(土)	だしパック工場見学 (工場の殺菌のため中止)	
16 日(火)	東海地域センター教職員委員会	名古屋都市センター
20 日(月)	10 月度理事会	フレンドリィ南部食堂
22 日(水)	10 月度第 2 回教職員委員会	ゆ～どん
24 日(木)	経営改革プロジェクト	ゆ～どん
30 日(金)	激甚災害ワーキング会議	ゆ～どん

名大生協



「かけはし」編集委員会行

.....山.....折.....り.....

○氏 名 _____ 組合員証番号 _____

○所 属 _____ 研究科
学部 _____ 専攻・課
センター _____ 学科・掛（教職員・院生）

○連絡先 _____ 内線 _____

○誌上匿名希望の方はペンネーム _____

.....山.....折.....り.....

- ①安心安全の COOP 細江みかん産地見学【11月22日（土）】
- ②「初冬のホット・ジャズ・コンサート」【12月5日（金）】
- ③50歳からの健康エクササイズ Part2【12月11日（木）】

参加申込用紙

番号	氏 名	所 属	内 線	年 齢	組合員証番号

①は保険の関係で年齢が必要ですので必ず記入して下さい。

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 250 号

クイズのこたえ _____

☆ 今月号を讀
んでの感想

☆ 記事にしてほしいこと。生協への
ご意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOPクイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail:kyoshoku-c @coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。

か

け

は

かけはし7・8月号(248号)の応募を4人と発表しましたが、Webでの応募者の内7名分を忘れてしまいました。ここに深くお詫びいたしますとともに、お寄せいただいたかけはしの感想・意見をまとめて掲載いたします。

7・8月号 の感想

インタビューが読みにくい

★今回初めて読みました。夜10時まで営業の京大の学食が羨ましいです。弁当事業って何ですか? 350円で野菜がいっぱいなら食べたいです。河野先生のインタビューのページで、見出しの位置がページの先頭に統一されているため本文のどこからその内容が始まるのかが分からず読みにくいです。【ちまちま】

岡崎のことを載せて

★岡崎市民なので岡崎のことが載ってうれしいです。【牧野】

【Money】

行きたかった

★ピアガーデンに行きたかった・・・【こはん】

もの作りには技能が必要

★技能オリンピックで東海地方の企業の方が大変健闘されたとの記事、うれしく読みました。以前NHKでデンソーでの若い技能者を育てる取り組みに関する番組をやっていたが、それがずっと続けられているということですね。いかに機械や計算機が高精度化しても、本当に良いものを造り出すためにはこういう人たちが不可欠なんだなあと、つくづく思いますね。【ナンバー6】

初めて知りました

★このような雑誌があるなんて初めて知りました。これから読ませていただきます! 【アトムBOY】

9・10月号 の感想

時代は環境学

★時代は環境学! 我が環境学研究科長の熱い言葉に感動しました。文系・理系の枠にとらわれない、新しいチャレンジが私を奮い立たせます。面白かった! 感動した! 【ぶれりゅーど】

インタビューが楽しかった

★かけはしは普段から読んでいましたがアンケートは初めてです。今回は研究科長へのインタビューが楽しかったです。これから期待しています。【lara】

我が家の失敗を思い出した

★久野研究科長へのインタビュー記事を読み数年前に建てた我が家の場合の数々の失敗を思い出しました。【金丸信明】

か

9・10月号
の感想 2

インタビュに期待します

★インタビュよかったです。
これからも期待します。

【うどん】

地球環境を守る研究に期待

★立派な環境学の建物ができま
した。地球環境を守る研究も期
待したいです。生涯、自動車は
購入しないぞ！

【赤松保雄】

インタビュは興味深い

★環境学研究科長へのインタ
ビュが興味深かった。他学部
での活動を知る、良い機会だと思
う。

【メロンパン】

読み応えがあった

★久野先生のインタビュは大
変読み応えがありました。ポジ
ティブな快適性とネガティブな
快適性という考え方は、とても
新鮮であり、おもしろいと思
います。

【I】

知識もないのに実況するな

★にゅーすに一喝。一喝してい
ないような・・・だから、代わ
りに一喝。スポーツ中継で勉強
もせずに知識もないくせに実況
するやつが多すぎる。

【びつぐさんだーまうんてん】

名古屋弁がだんだん好きに

★「やかんで煮て食う」は焼かず
に煮て食べることであったので
すね。「きたない」は来たくない
ということなんですね。名古屋に
移り住んで30年余、名古屋弁が
だんだん好きになってきました。

【mi】

9月は防災月間が良かった

★裏表紙の「9月は防災月間」が
よかったです。ユニークな工夫
をしている研究室などの実例が
見たいです。

【PV】

ヒントなしでは解けなかった

★今回のクイズは難しかったで
す。ヒントなしでは解けなかつ
たかもしれません。いや、解けな
かったと思います。

【だるまおとし】

ポリウムが重い

★全体的にポリウムが重かつ
たです。

【みよ】

土曜日で残念

★産地見学、工場見学が土曜日
なのが残念ですね、まだまだ世
間では私を含めて土曜日は仕事
のところが多いのではないで
しょうか。それでも、日曜日だと
次の日がつらいと

【えすばあ】

9月は防災月間が良かった

★裏表紙の「9月は防災月間」が
よかったです。ユニークな工夫
をしている研究室などの実例が
見たいです。

【PV】

ヒントなしでは解けなかった

★今回のクイズは難しかったで
す。ヒントなしでは解けなかつ
たかもしれません。いや、解けな
かったと思います。

【だるまおとし】

意見と
通信

意見と
通信

★あつと驚く企画を楽しみ
にしています

【ごはん】

公務員として採用されたのに

★今何か書けと言われたら先に
成立した「国立大学法人法」しか
思い浮かびません。基本的な部
分については他に譲って、松尾
総長もビツクリの「非公務員型」
について、特に教職員の方に、問
いかけたいと思います。第一に、
採用時の契約で公務員となつた
筈なのにそれが履がえされて新
たな雇用関係を強いられる事
です。特に教員の場合は「教育公務
員特例法」の対象外に成る事
です。これは(前衛的な研究をして
いる)一部の人の為のものでは
決してありません。その精神は
全ての創造的な研究者の日常の
研究教育活動の中に生きてい
なければならぬ事なのです。

【金丸信明】

け

は

南部書籍にも理系の本を

★生協の書籍コーナーを充実させて欲しいと思います。人間情報学研究科は文系エリアにあるため最寄りには南部生協なので、私は理系のため理系の参考書を購入するにはいつも北部生協まで行かなければなりません。

【Money】

▼ご意見ありがとうございます。学問分野の学際化が進み、従来の書籍の分野分けでは対応できなくなっていると感じています。南部書籍でも品揃えの見直しをここ数年進めて来ていますが今後も行っていきたいと思っています。ぜひご協力をお願いします。【波多野購買書籍部長】

紙面の半分を使うのは…

★教授のインタビュで紙面の半分を使うのはいかがなものかと

【牧野】

理系でもたい焼きを

★週に1日ぐらい、理系地区に北部などの出張店（タイヤキやパンなど）がきてくれるとうれしいなあ。

【みよ】

▼ご意見ありがとうございます。理

系地区では場所等の問題で実現することは残念ながらできません。

【波多野購買・書籍部長】

Logicは楽しい

★久しぶりにLogicをやって楽しめました。一問ではなく、たくさん出題してほしいです。

【アトムBOY】

みんなのゴミが汚している

★ごみの問題を考えて欲しい。今、みんなのごみが、キャンパスを、そして、地球を汚している。くっ！ってことで、ゴミの出し方だけではなく、要領のよいゴミ問題の考え方はいかがでしょうか？ 【ぶれりゅーど】

私の回答がない

★今号の末尾部分を読んで、先号のアンケートへの私の回答（ネットで投稿した）が行方不明になっていることに気付きました。駄文が掲載されないのは構わないが、確率100%の図書券を逃したのは悔しい。ところで何号分までの図書券が既に発

送されているのでしょうか？これも気になります。【金丸信明】
▼大変ご迷惑をおかけしました。感想ご意見は（現場での回答が必要と思われるものを除いて）今号でまとめて掲載させていただきます。当選者への図書券発送は2号以上は溜めないようにを努力目標にしています。

【編集部】

理系食堂を夏休み期間中も

★夏休み期間中、理系地区の夕方と土曜日の食堂の営業をして欲しいなどと私も思いましたが、働いていらつしやる方も大変でしょうから、無茶なことにならない程度に我々の期待に沿えるようにお願いいたします。

【だるまおとし】

最近、ごはんがおいしいで

すね。

【うどん】

名大グルメツアーを希望

【びっくさんだーまうんてん】

地震対策や身の回りの安全

対策について

【I】

新しい建物の記事を

★現在、名大では工事ラッシュが起きている。どういった利用目的で建てられているのかが、学生にはあまり伝わってこないと思っているのは、私だけなのでしょうか。新しく建築しているものに関する記事を読みたいと思います。また、院生が仮眠を取れるような施設があればいいなと思います。【メロンパン】

ミルクプリンを50円に

理系コンビニを後1時間

★ミルクプリン50円にならんすかねえ、あと、理系コンビニの開店時間もう一時間何とかならんでしょうか。【えすばあ】

▼ご意見ありがとうございます。ミルクプリンは通常期に50円にすることは仕入値との関係もありできませんが、生協祭りや企画期間等で実現していきたいと思っています。理系ショップは夜の営業時間での利用実績や運営に関わるコスト等の関係で今以上に営業時間を延長することは残念ながらできません。

【波多野購買・書籍部長】

2003 年 11・12 月号

[illegible]

前回の
問題

前回の問題

應募要項

- 締め切りは12月15日
- 発表は本誌、1・2月号
- 正解者(但し、①組合員
Ⅱ当選後ご加入も可、
②意見・感想記入者)の
中から、抽選で5人の
方に図書券をさしあげ
ます。
- 生協への意見・要望をど
しどしお寄せ下さい。

第249号の当選者

・ 応募総数	∴ 13人
・ 正解者数	∴ 13人
・ 当選者（敬称略）	
安井幸夫（理学研究科）	
市井和仁（工学研究科）	
山根みち子（工学部）	
鳥羽妙（生命農学研究科）	
赤塚保雄（情報連携基盤C）	

以上の5人の方に図書券をお送りします。